

群馬県勢多郡大胡町大字茂木

# 西 小 路 遺 跡

(ゴルフ練習場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告)

## 刊行にあたって

勢多郡大胡町は、県都前橋の東に接するベットタウンとして住宅並びに店舗等の開発が著しく、かつての養蚕と米作を主体とする農業地域から大きく変貌しようとしています。こうした開発の増加に伴い埋蔵文化財発掘調査が実施され、原始古代より中・近世に至る貴重な成果を知見をもたらしています。これらは当町の歴史・産業・文化を偲ぶ郷土の貴重な資料として、整理・保存し、永く後世に遺すことが歴史解明の一助となると確信している次第です。

この「西小路遺跡」の発掘調査を実施するとともに、その調査結果の刊行に当たり、御協力、御指導を受けた関係諸機関の方々並びに開発行為者である有限会社ゴルフ・ワールド代表取締役 大原英雄氏に厚くお礼申し上げ、感謝を表する次第であります。

平成6年3月

大胡町教育委員会

教育長 劔 持 平三郎

## 例 言

- 1 本書は、平成5年度大胡町茂木地内に於ける有限会社ゴルフ・ワールドのゴルフ練習場建設に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査報告である。
- 2 発掘調査地区は、勢多郡大胡町茂木大字西小路388-1番地他に所在する。
- 3 発掘調査は、(有)ゴルフ・ワールド代表取締役 大原英雄氏と大胡町長との調査委託契約に基づき、大胡町教育委員会が行った。
- 4 発掘作業は、平成5年(1995)8月2日より同年11月2日まで実施した。
- 5 調査並びに本書の作成は、大胡町教育委員会社会教育課主査 山下歳信が担当した。
- 6 発掘調査によって出土した遺物については総て大胡町教育委員会にて保管管理している。
- 7 発掘調査から本書作成の過程で、次の方々や諸機関からご協力・ご指導をいただいた。(順不同、敬称略)

群馬県勢多郡社会教育文化財分会の諸氏、技研測量株式会社、須賀建設株式会社前橋営業所 中東耕志、谷藤保彦、時枝 務、杉山秀宏、小管将夫

- 8 発掘参加者並びに整理参加者(順不同、敬称略)

関谷清治 阿久沢福造 下山 敏 菅田ツル 高橋充子 奥野富子 勅使川原幸枝 大原きみ子  
登坂うた子 石井よね 小沢チツエ 横沢和代 林 みき 荻原秀子 滝本房子 井野ちろう子  
五十嵐文江 横沢恵子 山下雅江 鈴木久美子

※本調査は、(有)ゴルフ・ワールド代表取締役 大原英雄氏の全面的なご理解・ご協力により報告に至ったが時間・紙面の都合上、旧石器、縄文時代の大半の石器、遺物写真の掲載ができなかった。

掲載した挿図図版のスケール

全体図1:400 住居跡1:60 炉址1:40 土器1:3 石器1:3(石棒のみ1:4) 土製円盤、耳栓1:2 土壇1:40 古墳平面図1:200 石室1:40 直刃1:5 鉄鍬、耳環1:1.5 古銭、煙管、和鏡、筭1:2 輪宝1:1

## 目 次

刊行にあたって

例 言

目 次

挿図目次・図版目次

第1章 発掘調査に至る経緯 .....	2
第2章 遺跡の位置と環境 .....	2
第3章 遺構と遺物 .....	7
西小路古墳群	
近 世 墓	
第4章 結 語 .....	47
写真図版	

## 挿 図 目 次

第1図 西小路遺跡と周辺の遺跡	第2図 茂木地区の古墳分布図
第3図 西小路遺跡全体図	第4図 2号住居・出土遺物
第5図 3号住居・出土遺物	第6図 4号住居・出土遺物
第7図 6号住居・出土遺物(1)	第8図 6号住居出土遺物(2)
第9図 7号住居・出土遺物(1)	第10図 7号住居出土遺物(2)
第11図 9号住居・出土遺物(1)	第12図 9号住居出土(2)
第13図 11号住居・出土遺物(1)	第14図 11号住居出土遺物(2)
第15図 11号住居出土遺物(3)	第16図 12号住居・出土遺物
第17図 13号住居・出土遺物(1)	第18図 13号住居出土遺物(2)
第19図 14、16号住居・出土遺物	第20図 17号住居・出土遺物
第21図 18号住居・出土遺物	第22図 土器溜まり(1)
第23図 土器溜まり(2)	第24図 土墳
第25図 土墳出土遺物・埋壘(1)	第26図 埋壘(2)
第27図 漏1号墳	第28図 漏1号墳出土遺物
第29図 漏2号墳	第30図 漏2号墳石室
第31図 漏2号墳出土遺物(1)	第32図 漏2号墳出土遺物(2)
第33図 漏3号墳	第34図 漏4号墳
第35図 漏5号墳	第36図 近世墓平面図
第37図 近世墓坑と墓標	第38図 墓墳出土遺物(1)
第39図 墓墳出土遺物(2)	第40図 遺構外遺物(1)
第41図 遺構外遺物(2)	第42図 遺構外遺物(3)
第43図 遺構外遺物(4)	

## 写 真 図 版

- |  |   |
|--|---|
| <p>PL 1 西小路遺跡全景 (南西より)</p> <p>PL 2-1 1号住居 (北方より)</p> <p style="padding-left: 20px;">2-3 2号住居炉</p> <p style="padding-left: 20px;">2-5 3号住居</p> <p style="padding-left: 20px;">2-7 3号住居埋壑</p> <p>PL 3-1 6号住居 (真上から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3-3 6号住居 (東方から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3-5 6号住居遺物出土状況</p> <p>PL 4-1 7号住居 (南方から)</p> <p style="padding-left: 20px;">4-3 7号住居埋壑</p> <p style="padding-left: 20px;">4-5 9号住居炉</p> <p style="padding-left: 20px;">4-7 11号住居遺物出土状況</p> <p>PL 5-1 11号住居炉</p> <p style="padding-left: 20px;">5-3 11号住居遺物出土状況</p> <p style="padding-left: 20px;">5-5 12号住居炉 5-6 13号住居</p> <p style="padding-left: 20px;">5-7 13号住居遺物出土状況</p> <p>PL 6-1 14号住居遺物出土状況</p> <p style="padding-left: 20px;">6-3 15号住居</p> <p style="padding-left: 20px;">6-5 17号住居炉</p> <p style="padding-left: 20px;">6-7 土壌群と埋壑</p> <p>PL 7-1 5、6号土壌</p> <p style="padding-left: 20px;">7-3 8号土壌</p> <p style="padding-left: 20px;">7-5 7号埋壑</p> <p style="padding-left: 20px;">7-7 漏1号墳</p> <p>PL 8-1 漏2号墳全景</p> <p>PL 9-1 漏2号墳遺物出土状況</p> <p style="padding-left: 20px;">9-3 漏4号墳</p> <p style="padding-left: 20px;">9-5 漏5号墳</p> <p style="padding-left: 20px;">9-7 近世墓地 (北方より)</p> | <p style="padding-left: 20px;">2-2 2号住居遺物出土状況</p> <p style="padding-left: 20px;">2-4 2号住居遺物出土状況</p> <p style="padding-left: 20px;">2-6 3号住居埋壑</p> <p style="padding-left: 20px;">2-8 4号住居</p> <p>3-2 6号住居 (南方から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3-4 6号住居入り口部</p> <p>4-2 7号住居 (東方から)</p> <p style="padding-left: 20px;">4-4 9号住居</p> <p style="padding-left: 20px;">4-6 10号住居</p> <p style="padding-left: 20px;">4-8 11号住居</p> <p>5-2 11号住居遺物出土状況</p> <p style="padding-left: 20px;">5-4 12号住居</p> <p style="padding-left: 20px;">5-8 14・16号住居</p> <p>6-2 16号住居炉</p> <p style="padding-left: 20px;">6-4 17号住居</p> <p style="padding-left: 20px;">6-6 17号住居遺物出土状況</p> <p style="padding-left: 20px;">6-8 1号土壌</p> <p>7-2 7号土壌</p> <p style="padding-left: 20px;">7-4 9号土壌</p> <p style="padding-left: 20px;">7-6 土器溜まり</p> <p style="padding-left: 20px;">7-8 漏1号墳遺物出土状況</p> <p>8-2 漏4号墳全景</p> <p>9-2 漏2号墳前庭</p> <p style="padding-left: 20px;">9-4 漏5号墳</p> <p style="padding-left: 20px;">9-6 2号井戸</p> <p style="padding-left: 20px;">9-8 近世墓地 (南方より)</p> |
|--|---|

## 第1章 発掘調査に至る経緯

平成5年7月、開発の行為者である大原英雄氏よりゴルフ練習場をオープンしたいので埋蔵文化財発掘調査を対応してほしいとの「開発に伴う文化財調査願書」が提出された。

当地区は西小路古墳群の一角にあり、南東の台地には上ノ山古墳群、さらに三ッ屋遺跡等も西の台地に存在することから開発前に発掘調査の必要を打診し、保護・協力を求めた。

該当地での農作業中には土器をしばしば目にし、更に古墳の存在も会話で推察され、また、現地の方には土塁が存在し、該当地区を「一丁屋敷」と呼称していることから開発前の調査の必要性を認識されており、快い承諾の回答を得た。

同年7月27日の起案で西小路遺跡の発掘調査委託契約を伺い、同年8月2日より6年3月31日の委託期間をもって発掘調査並びに調査報告を刊行することで合意した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

本遺跡の所在する茂木地区は、県指定史跡「大胡城」(A)によって形成された町屋の南方にその大半が位置し、旧石器時代より近世に至る多くの遺跡が濃密に存在する。西小路遺跡(1)は、上毛電気鉄道大胡駅より南々西に約750m、主・地藤岡・大胡線の西に位置する。東西南の三方に低地がめぐる舌状台地で、北方には大正用水が貫通している。

本遺跡の南方には低地を挟んで小字小林に旧石器時代の三ッ屋遺跡(3)、そして同台地上に小林・山神・大畑遺跡群が連続して前橋境まで広がり、縄文時代中期加曾利E式期、古墳時代後期～平安時代の集落が検出された(注1)。上ノ山遺跡(2)は西小路遺跡の南東に低地を挟んで対峙し、縄文時代中期加曾利E式期の集落、竪穴式古墳群・横穴式古墳群等が検出されている(注2)。同遺跡の南方に広がる低地の山ノ前遺跡(4)では工事中に大量の備蓄銭が出土している。

小字小林的北方に続く諏訪東・経塚・天神風呂地区は、天神風呂(大胡バイパス)遺跡(9)(注3)の調査より民間開発に係る調査で広範囲に縄文時代～平安時代の集落が分布していることが判明している。縄文時代では前期黒浜・有尾式期(0)、諸磯式期、中期焼町式期(0)の集落と土器を検出している。特出すべきは瓦塔・浄瓶(0)・朱墨?等の出土遺物から寺院跡の存在が推察させる資料が目を引く(注4)。

同台地上で上毛電気鉄道の北方、天神遺跡(8)では縄文時代中期阿玉台式期、後期堀之内式期の好資料を検出している(注5)。同遺跡の西方には県指定史跡堀越古墳(3)が存在する。

荒砥川の東岸の荒砥川低地では、中宮関遺跡(5)で弘仁9年(818)の地震に起因すると考えられる災害によって埋没した水田が検出されている。

上大屋・榎越地区遺跡群では縄文時代前期諸磯式期と須恵器窯・木炭窯・製鉄の生産遺構(6)等が検出されている(注6)。

本遺跡の所在する茂木地区は古墳の集中地区でもある。(第2図 茂木地区古墳分布図)昭和10年に実施された群馬県下の一斉調査を基に編集された「上毛古墳総覧」には10基が登録されている。

上ノ山遺跡の発掘調査(注2)では2基の竪穴式古墳と3基の横穴式古墳が追加確認され、本調査でも新しく5基(横穴式古墳4基、竪穴式古墳1基)を検出した。この結果、記載漏れを加えて当地区での古墳は20基を数える。



- A 大胡城跡 (群馬県指定史跡)
- B 堀越古墳 (群馬県指定史跡)
- 1 西小路遺跡 2 上ノ上遺跡
- 3 三ツ屋遺跡 4 山ノ前遺跡 5 上大屋・堀越地区遺跡群 (ハケ峯生産址遺跡)
- 6 中宮閑遺跡 7 殿町遺跡 8 天神遺跡 9 天神風呂遺跡 (大胡バイパス)
- 10 天神風呂C地点遺跡 11 経塚遺跡 12 諏訪東遺跡

第1図 西小路遺跡と周辺の遺跡



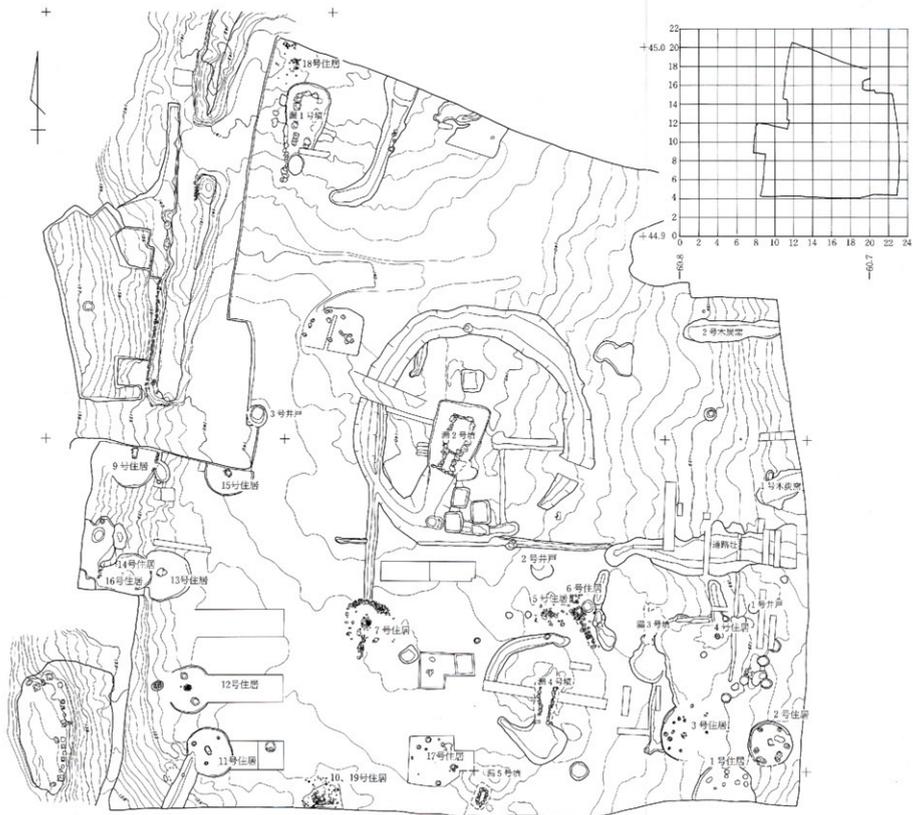
茂木地区の古墳分布

- 1 西小路遺跡・漏1号墳
- 2 西小路遺跡・漏2号墳
- 3 西小路遺跡・漏3号墳
- 4 西小路遺跡・漏4号墳
- 5 西小路遺跡・漏5号墳
- 6 大胡町4号墳
- 7 大胡町3号墳
- 8 大胡町5号墳
- 9 大胡町6号墳
- 10 上ノ山遺跡・漏1号墳
- 11 上ノ山遺跡・漏2号墳
- 12 上ノ山遺跡・漏3号墳
- 13 上ノ山遺跡・漏4号墳
- 14 上ノ山遺跡・漏5号墳
- 15 上ノ山遺跡・漏6号墳
- 16 大胡町10号墳
- 16 大胡町9号墳
- 16 大胡町8号墳
- 16 大胡町7号墳
- 20 記載漏れ
- 21 大胡町11号墳

第2図 茂木地区の古墳分布図

当町では「上毛古墳総覧」に41基の古墳が記載されている。その後の調査によって現在では58基を数えるに至っている。大字毎の集計では茂木地区が一番濃密に分布している。

- (注1) 中川原遺跡群 小林・山神・大畑遺跡 団体営中川原地区土地改良総合整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II 1992
- (注2) 中川原遺跡群 上ノ山遺跡 団体営中川原地区土地改良総合整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書I 1992
- (注3) 天神風呂遺跡 主要地方道、前橋・大間々桐生線<仮称大胡バイパス>建設の事前埋蔵文化財発掘調査報告書 1981
- (注4) 天神風呂C地点では黒浜・有尾式期、経塚遺跡で浄瓶を検出。
- (注5) 天神遺跡 群馬県史 資料編1 原始古代1 旧石器・縄文
- (注6) 上大屋・榎越地区遺跡群 主要地方道、前橋・大間々・桐生線(大胡バイパス)建設の事前埋蔵文化財発掘調査報告書



第3图 西小路遗址全体图

## 第3章 遺構と遺物

### 2号住居 (第4図)

当住居は、本遺跡の南東部の緩やかな傾斜地5-22グリットのその大半を占め、1、3号住居が西方に隣接する。平面プランは、円形(4.7×4.5m、深さ32cm)を呈する。8本の支柱穴が壁際に検出されたが、南方部の重複する柱穴は、建て替えが考えられ、6本の支柱穴であろう。炉址は方形の石囲炉(75×55cm)で、南辺の中央に凹石を使用している。周溝は全体のほぼ半分が北方に巡る。埋壔は検出されない。

出土遺物は炉址の西方に多く点在する。1は無文の胴部片、2は4つの突起を付し、沈線文と連続交互刺突文で口縁部文様帯を意匠する深鉢形土器。3の土製円盤は炉内の出土。5はキャリパー状を呈する深鉢形土器。加曾利E2式期の様相を呈する。

### 3号住居 (第5図)

当住居は、本遺跡の南東部5-20グリットに位置し、東方に1、2号住居が隣接する。平面プランは、西壁を残すのみで明確でないが南北に長い楕円形を呈すると考えられる。柱穴は6カ所に検出されたが支柱穴は不明である。1号炉址は埋設土器を伴う石囲炉であるが、その大半が抜き取られ掘り方の痕跡が確認される。さらに1号炉址の西方にも埋設土器を伴う2号炉址が存在する。埋壔は加曾利E3式期の深鉢形土器の完形を埋設している。周溝は北西部で僅かに確認された。

出土遺物1は4単位の山形突起を付す深鉢形土器で、口径31.5cm、器高41cm、底径6.3cmを測る。口縁部文様帯は渦巻文と楕円区画文を組み込み状は配し、胴部は縄文帯と磨消帯を交互に垂下させる。3は磨石で片面に凹孔を施す。4は石皿片。5は2号炉址に使用された埋設土器で、条線文による地文に波状文を施す。6は大形の深鉢形土器片。図示できなかったが3点の石鏃が出土。加曾利E3式期の様相を呈する。

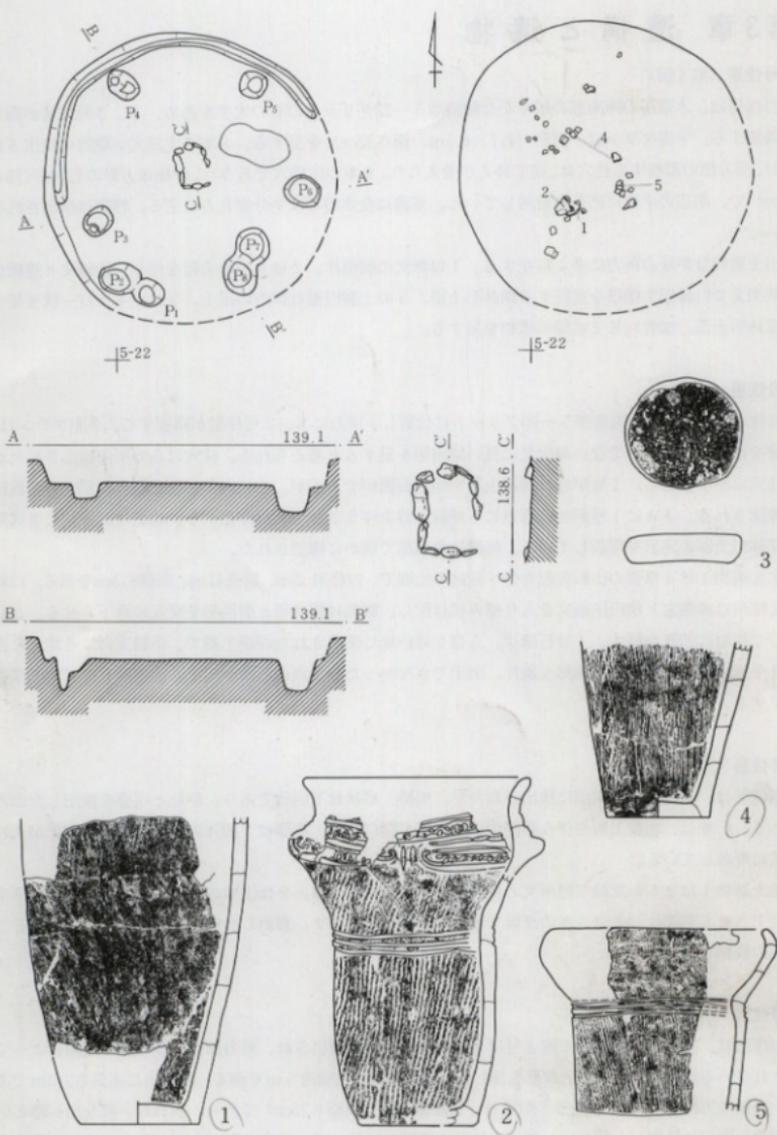
### 4号住居 (第6図)

当住居は、本遺跡の南東部に検出されたが、規模、形状は不明確であり、炉址と埋壔を検出したのみである。炉址は、埋設土器を伴う石囲炉で北方部が開口する。埋壔は2個体の深鉢形土器の胴部が入れ子状に埋設している。

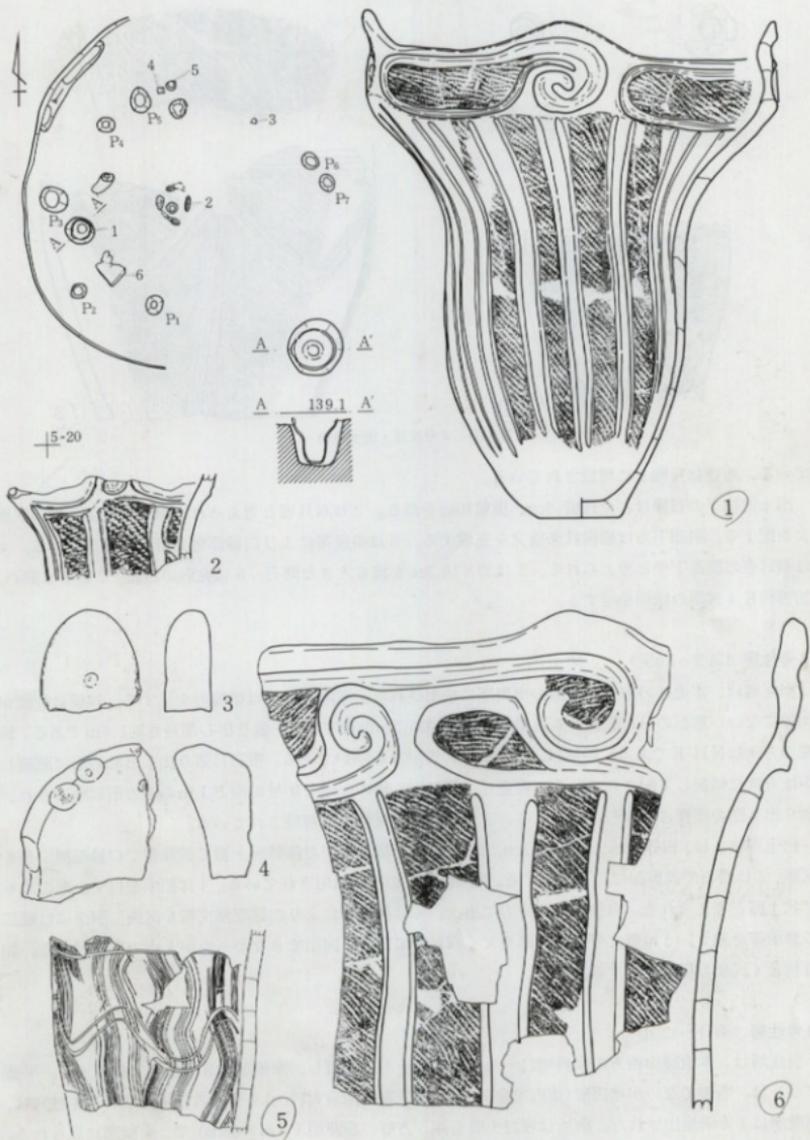
出土遺物1は2本の沈線で懸垂文と波状懸垂文を垂下させる。2は1本の沈線で懸垂文と波状懸垂文を垂下させる胴部片。3は3本の沈線で懸垂文と波状文を施す。磨消しを伴わないことから加曾利E2式期の様相を呈する。

### 6号住居 (第7～8図)

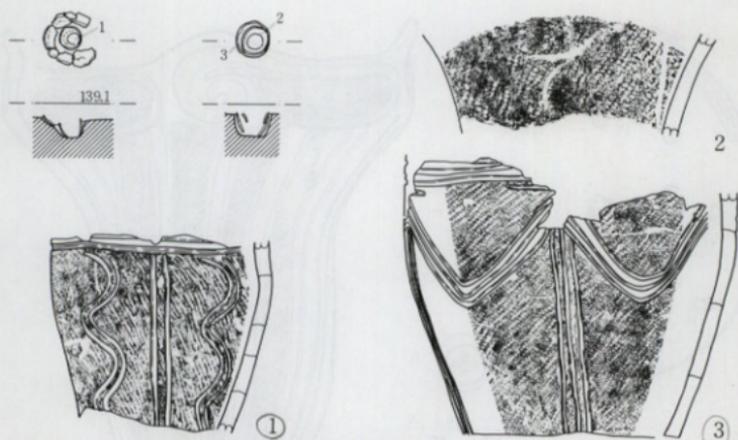
当住居は、本遺跡の南東部で漏3号墳と漏4号墳の間に検出され、東方部を漏3号墳の周堀によって壊されている。平面プランは柄鏡形を呈し、長軸6.95m、短軸約5mを測る。張り出し部長さ2.3mである。長軸の方向はN22°Wである。炉址は、方形の石囲炉(85×75cm)である。敷石は、張り出し部と炉址の南、西方に集中し、張り出し部と主体部の接続部に50×35cmの多孔石が存在する。主体部は張り出し部より10cmほど下がっている。炉址の北方には石棒、石皿、多孔石、磨石が集中して床面より出土し



第4图 2号住居・出土遺物



第5圖 3号住居・出土遺物



第6図 4号住居・出土遺物

ている。埋甕は長軸上に埋設されている。

出土遺物1の石棒は、全長67.8cm、重量10kgを測る。2は双耳壺と考えられ、微隆帯により楕円区画文を配する。胴部下方は櫛歯状条線文を充填する。3は微隆帯により口縁部無文帯を区画している。4は双耳壺の胴部下半と考えられる。5は20×16.3cmを測る大きな磨石。6は完形の石皿。7と8も磨石。加曾利E4式期の様相を呈する。

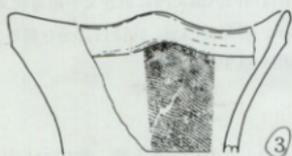
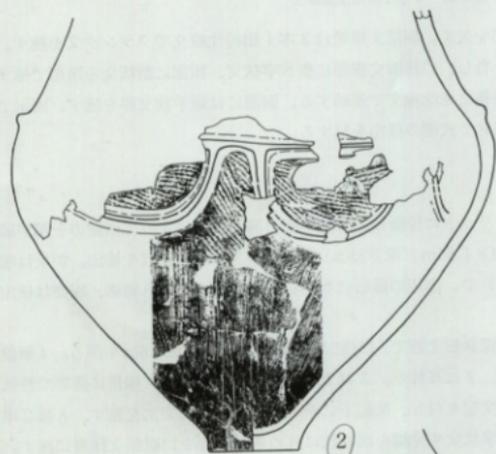
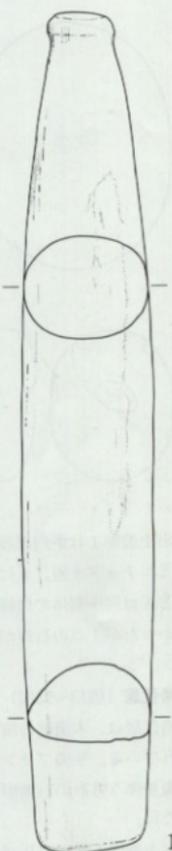
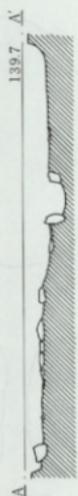
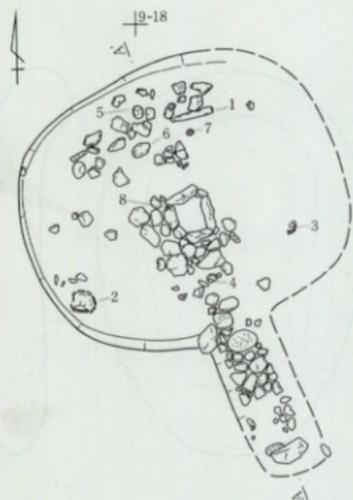
#### 7号住居 (第9～10図)

当住居は、本遺跡の中央やや南の平坦部に検出された。平面プランは柄鏡形を呈する。規模は壁面が明瞭でないが敷石の分布範囲から長軸6.4m、短軸5.5m前後を測る。張り出し部長さ約1.7mである。長軸の方向はN11°Eである。炉址は、1m前後の方形な石囲炉である。敷石は張り出しと北辺沿に囲繞し炉址方向に傾斜して配されている。埋甕は、張り出し部の先端と炉址の南方1mの2カ所に検出され、張り出し部の埋甕には封石が見られる。2つの埋甕は長軸上に埋設されている。

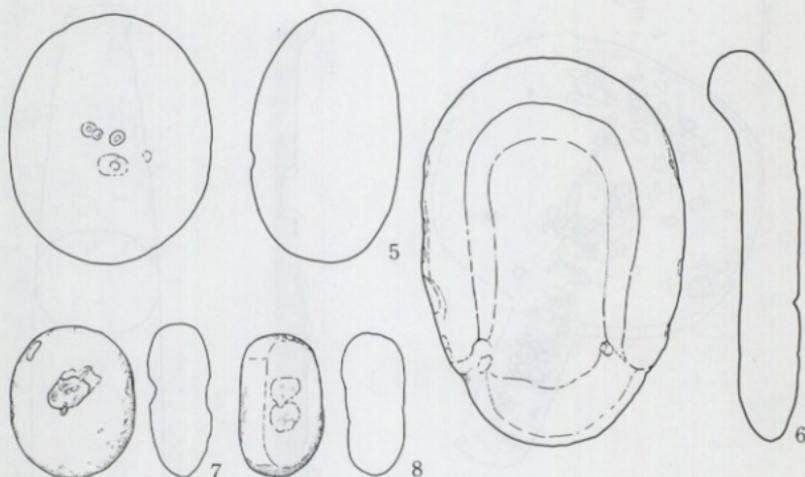
出土遺物1は、口径32cm、器高48.1cm、底径8.3cmを測る大形の深鉢形土器で微隆帯で口縁部無文帯を区画。2は磨石で表裏面に凹孔を有する。北辺に巡る敷石に転用されている。3は把手を付す小形のカップ状土器と考えられる。当住居外の東方で出土。4は微隆帯により口縁部無文帯を区画し胴部には幅広い磨消帯を施す。5は無文帯の口縁部を欠く双耳壺である。図示できなかったが1点の石鏃がある。加曾利E4式期の様相を呈する。

#### 9号住居 (第11～12図)

当住居は、本遺跡の西方の傾斜地11-8～9グリットに位置し、東壁部で8号土壇と重複する。平面プランは、明確でないが楕円形(東西推定5.5m、深さ東壁部最大77cm)を呈すると考えられる主柱穴は、南壁部に1カ所検出された。炉址は埋設土器を伴う方形の石囲炉(1m×60cm)で、東壁部に見られる。埋甕は検出されない。



第7图 6号住居・出土遺物(1)



第8図 6号住居出土遺物(2)

出土遺物1は炉内埋設土器で口縁部を欠く。胴部文様帯は3本1組の沈線文でクラック文を施す。3はミニチュア土器。6は頸部無文帯を有し、口縁部文様帯に横S字状文、頸部に鎖状文を隆帯で施す。7と8は同一個体で口縁部文様帯を渦巻文を沈線文で連結する。胴部には蕨手状文等を施す。図示できなかったが1点の石鏃が出土。加曾利E2式期の様相を呈する。

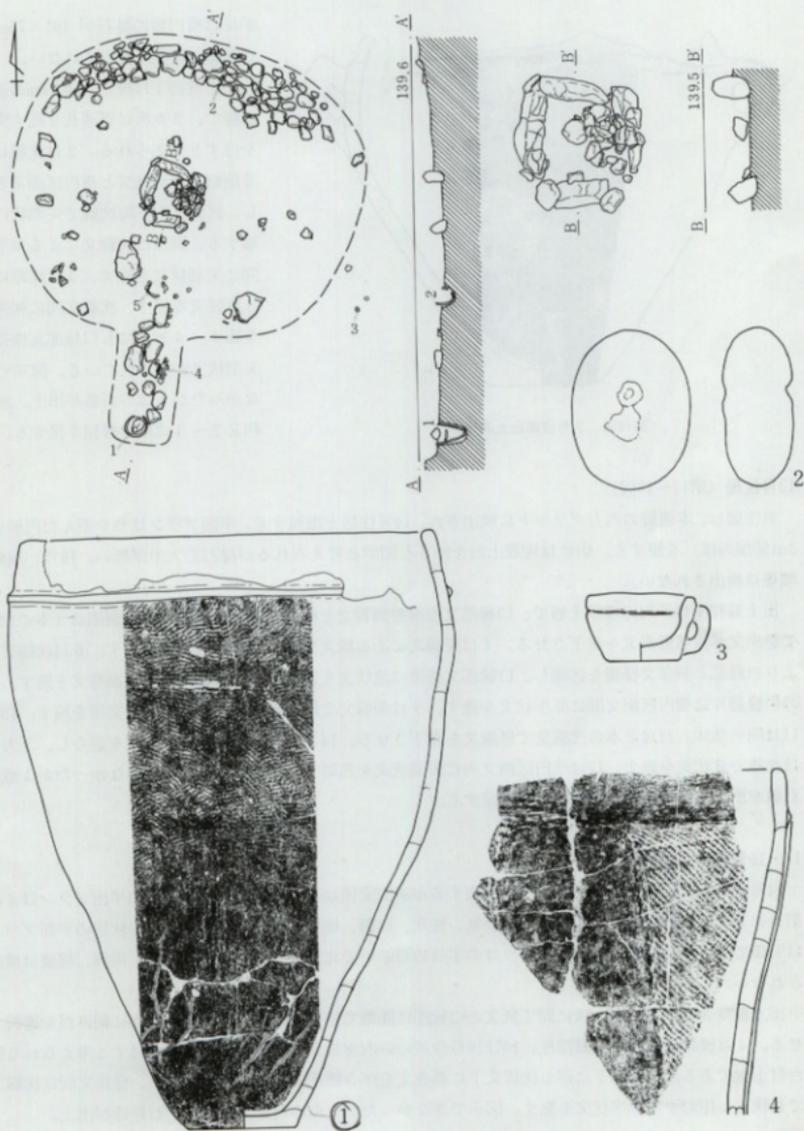
#### 11号住居 (第13～15図)

当住居は、本遺跡の南西部5～10グリットに位置し、時期不明の溝状遺構によって西壁の一部が破壊されている。平面プランは楕円形(5.4×4.55m、深さ35cm)を呈し、3本の主柱穴を検出。炉址は埋設土器を伴う方形の石囲炉(1m×55cm)で、南辺の縁石に多孔石を使用している。周溝、埋壘は検出されない。

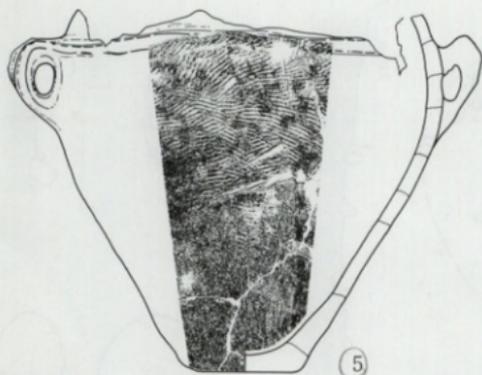
出土遺物1はキャリバー状を呈する深鉢形土器で、口径24cm、器高32cm、底径8.6cmを測る。4単位の小突起を付し、突起下を渦巻状とする。2は耳飾り。3は土製円盤。4は口縁部文様帯に隆帯で波状に繋ぐ。5はミニチュア土器。7は山形突起を付し、突起下に垂下する隆帯に刺突文を施す。8は2単位の小突起を付す深鉢形土器で隆帯で十字状文や先端を渦巻状に丸める弧文等を口縁部文様帯に施す。9は隆帯による楕円区画文が施されている。11の口縁部文様帯は楕円区画文内に渦巻文や鋸歯状文を施す。15は山形突起下に渦巻文を施す。16は浅鉢形土器で口径43cm、器高18.3cm、底径11.2cmを測る。図示できなかったが1点の石鏃が出土。加曾利E1～2式期の様相を呈す。

#### 12号住居 (第16図)

当住居は、本遺跡の南西部7～10グリットにその大半を占め、北方に7号土壇、南方に11号住居が位置する。平面プランは円形(5.05×4.75m、深さ10cm)を呈し、2カ所に土壇状の掘り込みを検出する。



第9图 7号住居・出土遺物(1)



第10図 7号住居出土遺物(2)

炉址は楕円形の集石炉 (95×75cm) で周溝、埋壔は検出されない。

出土遺物1は復元口径15cmの蓋状土器で、2カ所に貫通孔を施す突起を付すと考えられる。2は沈線による簡略した渦巻文と楕円区画文を施し、区画文内を短沈線で矢羽状に充填する。胴部は沈線文による垂下文間に矢羽状文を施す。3は沈線により意匠文を描き、沈線文間に刺突文を施す。4と5にも口縁部文様帯に矢羽状文が施されている。図示できなかったが2点の石鏃が出土。加曾利E2～3式期の様相を呈する。

#### 13号住居 (第17～18図)

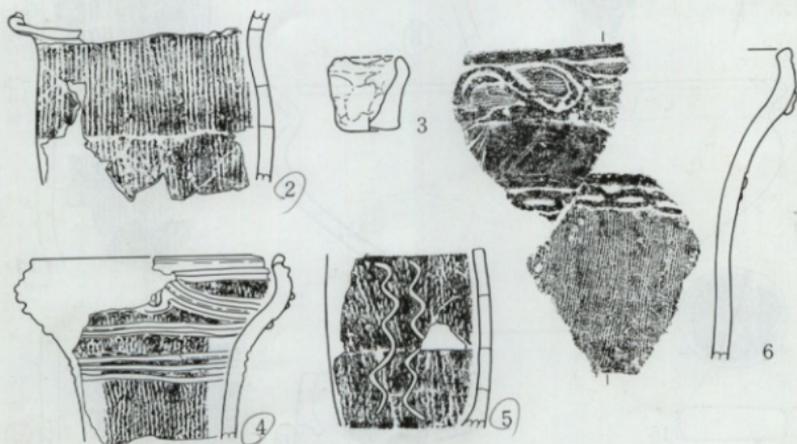
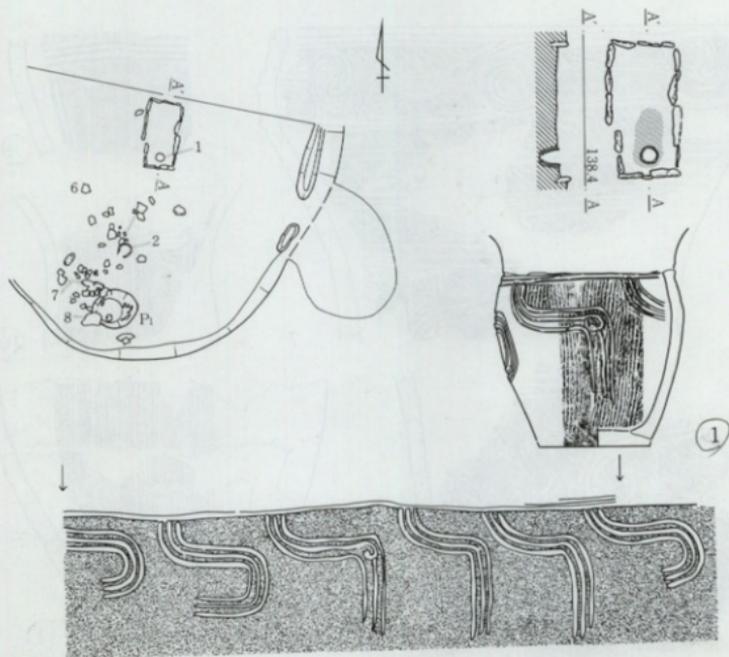
当住居は、本遺跡の西方グリットに検出され、14号住居と重複する。平面プランはやや歪んだ円形(5.3m前後の径)を呈する。炉址は埋設土器を伴う石囲炉と考えられるが緑石の大半が無い。柱穴、周溝、埋壔は検出されない。

出土遺物1は炉内の埋設土器で、口縁部文様帯を渦巻文と楕円区画文で構成する。胴部は3本の沈線で懸垂文と波状懸垂文を垂下させる。4は条線文による地文で隆帯による懸垂文を施す。6は沈線文により口縁部と胴部文様帯を区画し、口縁部文様帯に波状文を連続させ、胴部文様帯は渦巻文を施す。7の口縁部片は楕円区画文間に蕨手状文を施す。9は条線文を地文とし、沈線文で波状文等を施す。10と11は同一個体。13は2本の沈線文で懸垂文を垂下させる。14は口唇部下に交互刺突文を巡らし、下方には沈線で波状文を施す。17は楕円区画文内に矢羽状文を充填する口縁部片。図示できなかったが1点の石鏃が出土。加曾利E2式期の様相を呈する。

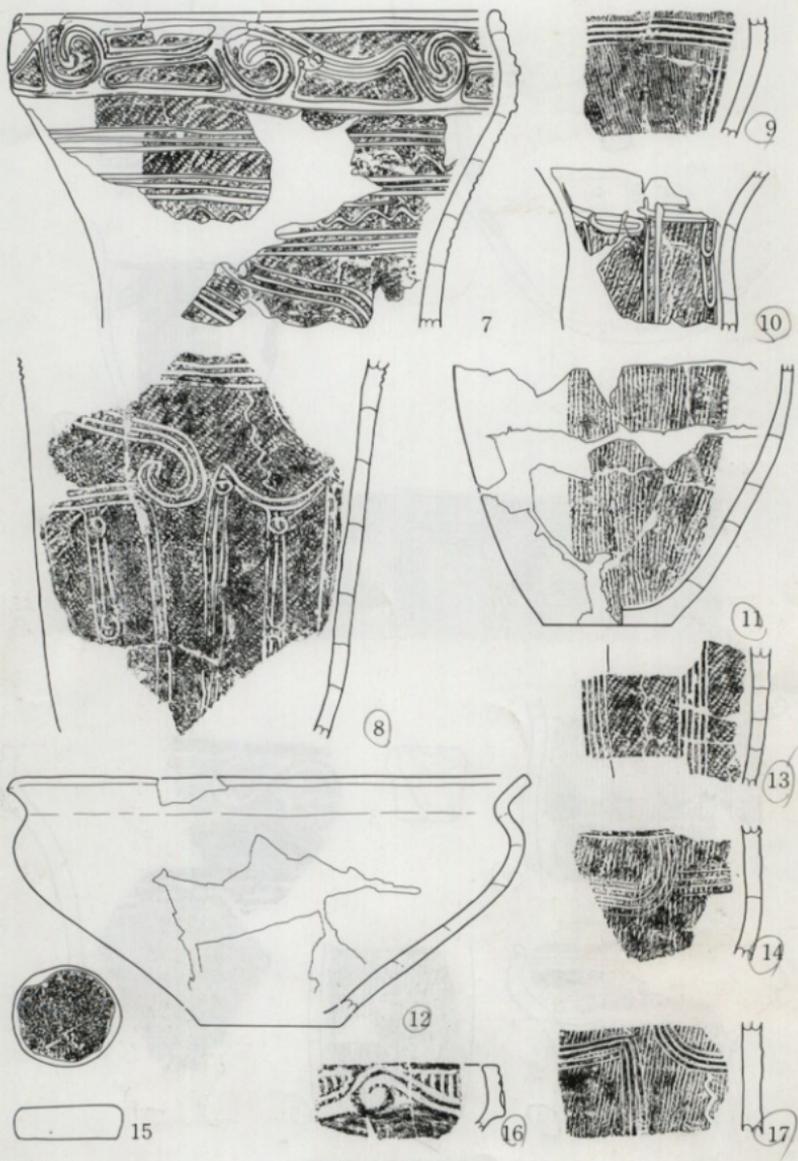
#### 14・16号住居 (第19図)

14号住居は、13号住居と16号住居と重複するが新旧関係は不明である。14号住居の平面プランは4m前後のやや歪んだ円形と考えられる。炉址、柱穴、周溝、埋壔は検出されない。16号住居の平面プランは明確でない。炉址は埋設土器を伴うコの字状の石囲炉で北方部を開口する。柱穴、周溝、埋壔は検出されない。

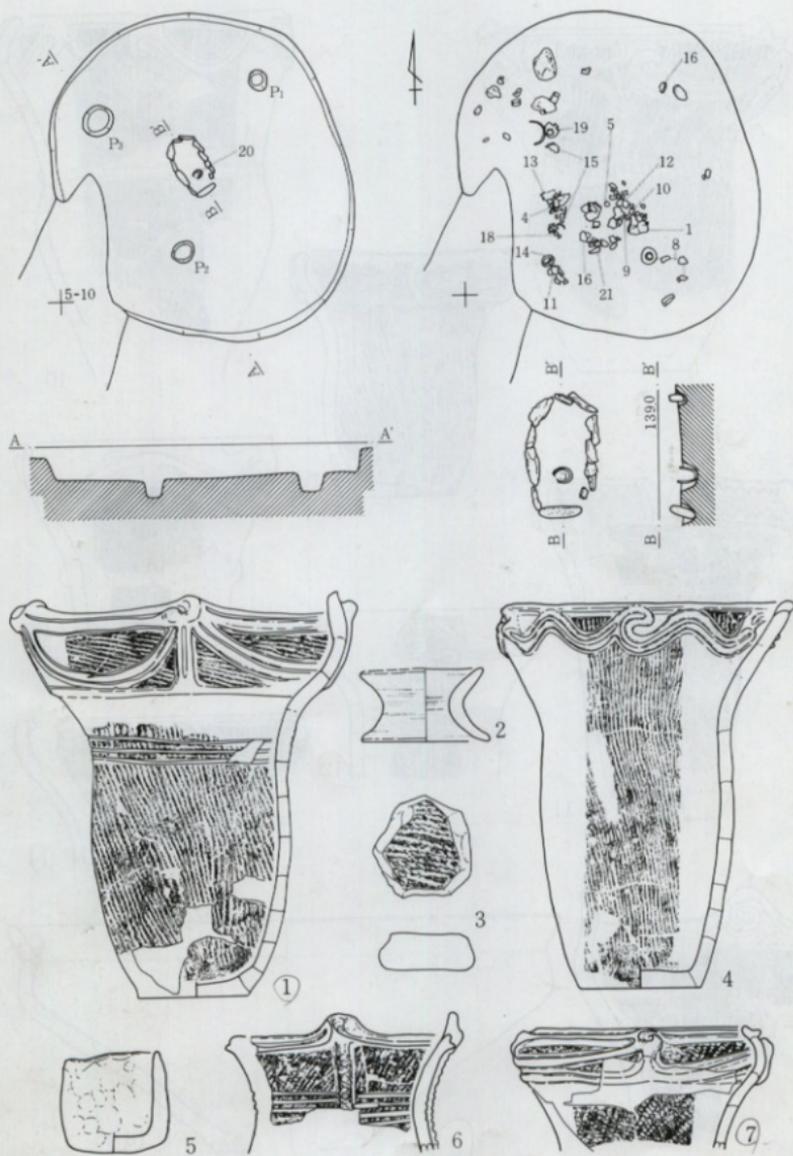
出土遺物3はキャリパー状に開く無文の口縁部に隆帯で窓枠状区画を設け、隆帯上に刻み目を連続させる。4は浅鉢形土器の口縁部片。10は16号住居の炉内埋設土器で1単位の突起を付すと考えられる脚台付土器である。口唇部下に巡る沈線文下に渦巻文を伴う懸垂文を4単位垂下させ、懸垂文間に沈線文でH状文が相対するU字状文を施す。図示できなかったが1点の石鏃、多孔石、石斧等が出土。



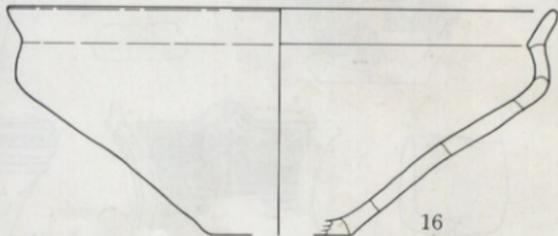
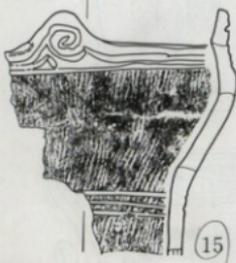
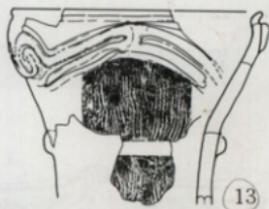
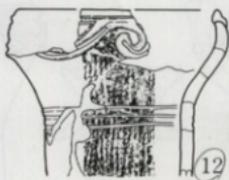
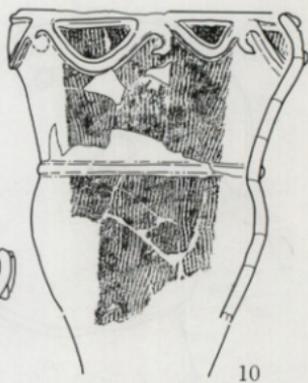
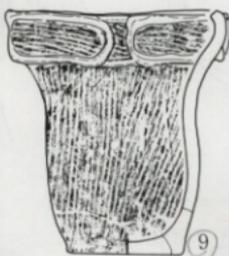
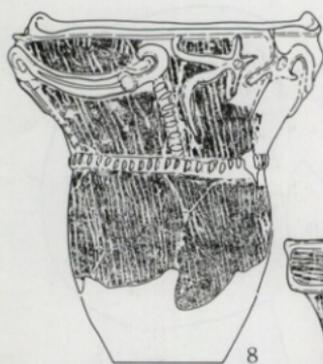
第11图 9号住居・出土遺物(1)



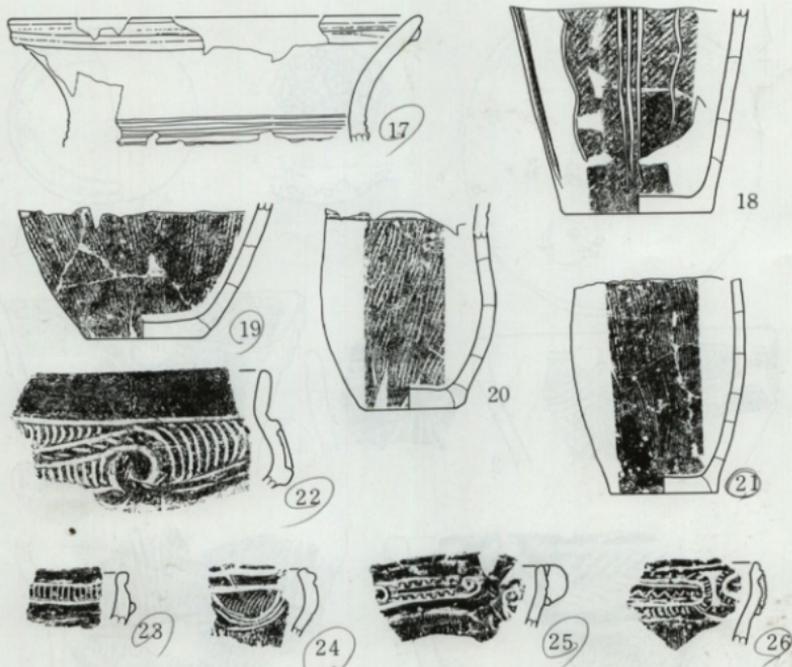
第12图 9号住居出土(2)



第13图 11号住居・出土遺物(1)



第14图 11号住居出土遺物(2)



第15図 11号住居出土遺物(3)

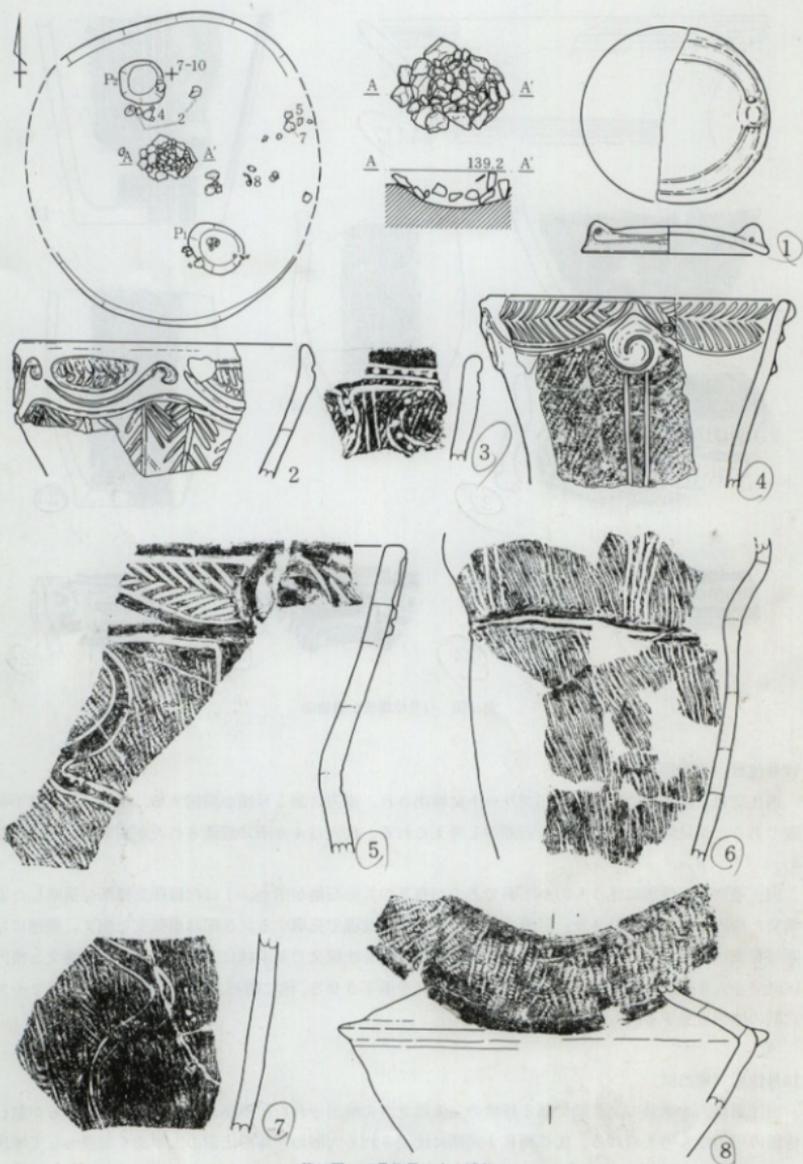
#### 17号住居 (第20図)

当住居は、本遺跡の南方5-15グリットに検出され、南方に漏5号墳が隣接する。規模、形状は不明確である。炉址は埋設土器を伴う石囲炉と考えられる。柱穴は4カ所に確認されたが規則性は明確でない。

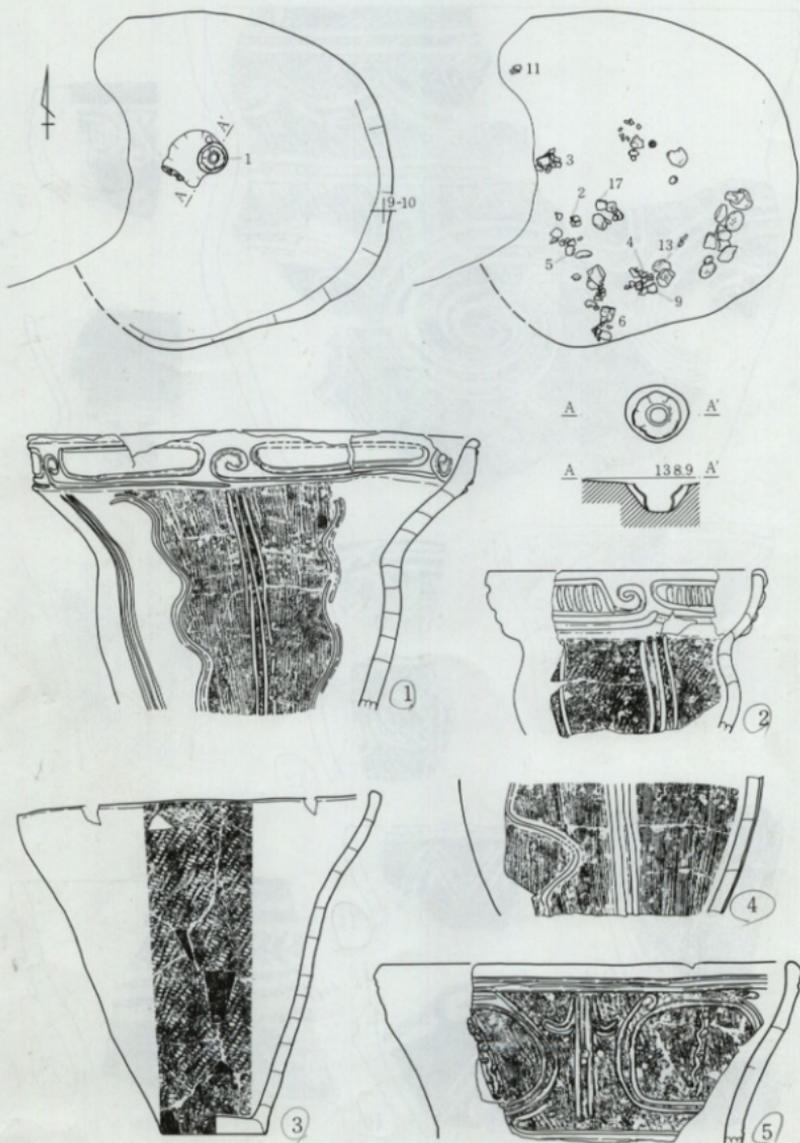
出土物は当住居に伴うものか不明であるが有茎の大形石甌が出土。1は口縁部文様帯を簡略した渦巻文と楕円区画文を連結させ、区画内を縦位か斜位の沈線で充填する。頸部は重弧文を施す。頸部には隆帯を波状に添付し、胴部は隆帯による波状懸垂文間を沈線文で矢羽状に充填する。2は渦巻文と楕円区画文を入り組状に配し胴部に隆帯による懸垂文を垂下させる。他に磨石、凹石が出土。加曾利E 2~3式期の様相を呈する。

#### 18号住居 (第21図)

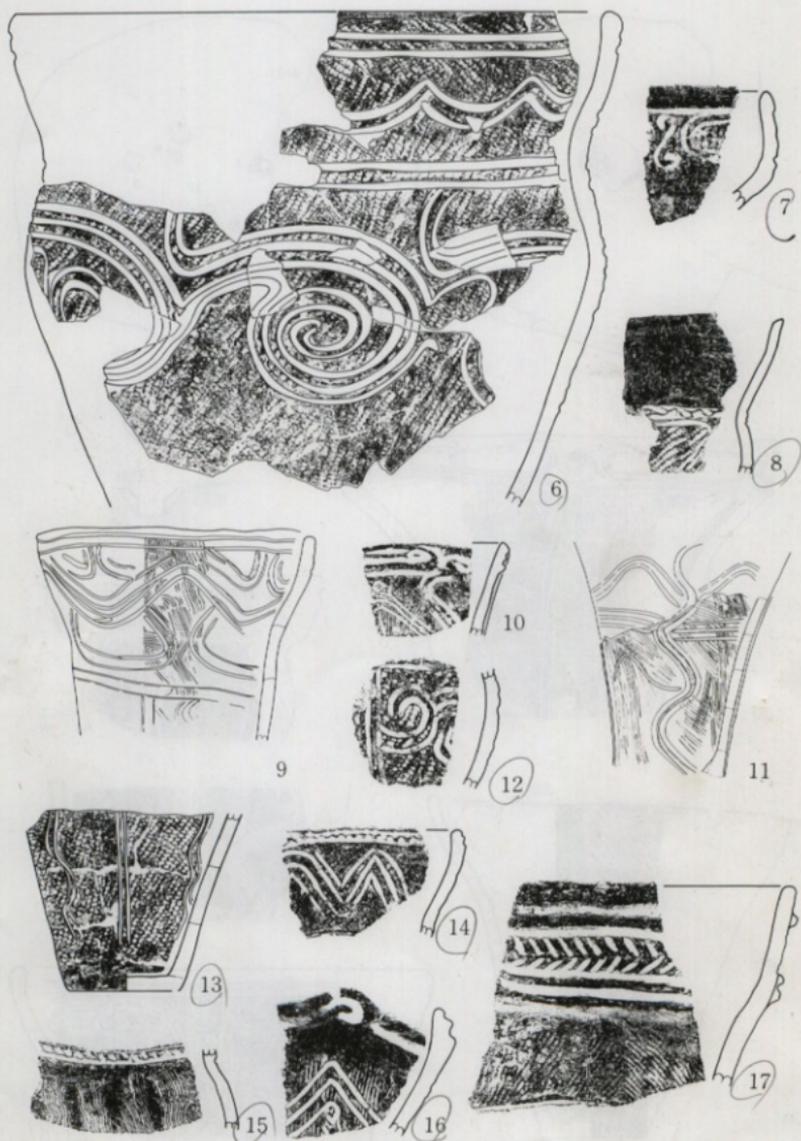
当住居は、本遺跡の北西隅で漏1号墳の主体部北方に検出された。規模、形状は不明確であるが敷石住居の可能性も考えられる。加曾利E 4式期に比定される大形の深鉢形土器の上半部を埋壙として埋設する。微隆帯で幅の狭い口縁部無文帯と幅広の磨消帯を区画する。口径は47.4cmを測る。図示できなかつ



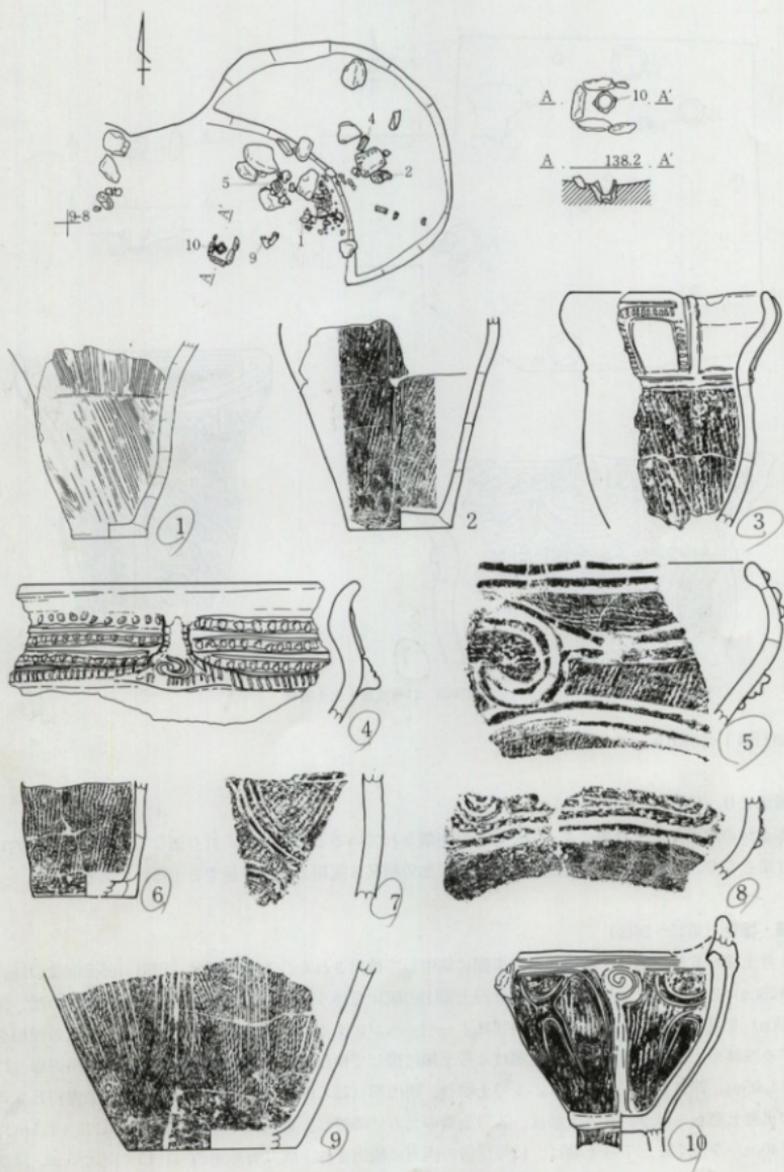
第16图 12号住居・出土遺物



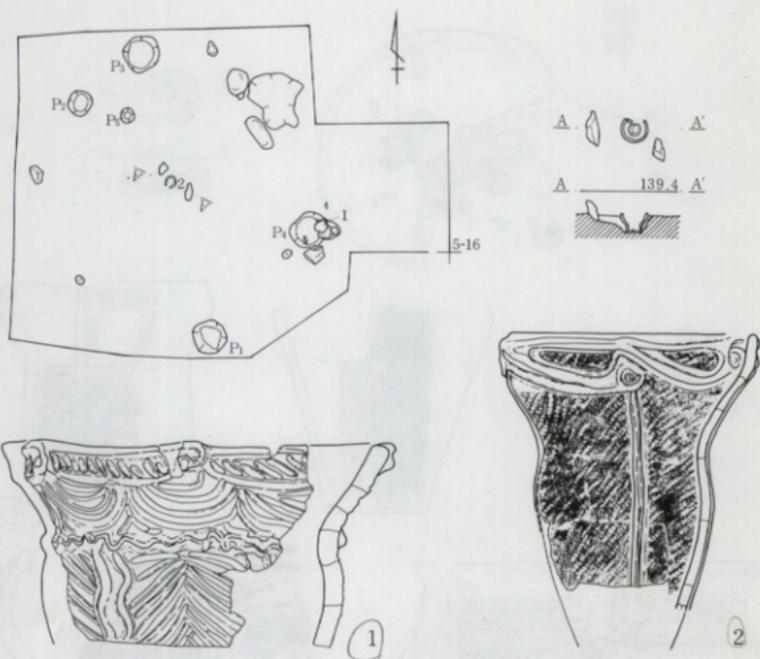
第17圖 13号住居・出土遺物(1)



第18图 13号住居出土遺物(2)



第19圖 14、16号住居・出土遺物



第20図 17号住居・出土遺物

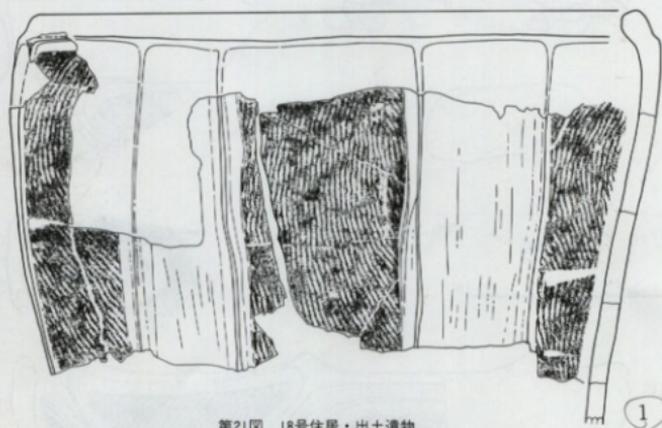
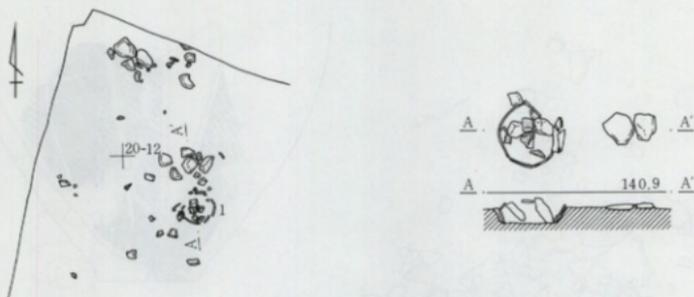
たが石鉄1点が出土。

#### 土器溜まり (第22~23図)

本遺跡の南西部で1号溝によってその一部が壊されていると思われる。折り重なる土器片は部分的には3重となり、1.9×1.7mの範囲に分布する。加曾利E3式期の様相を呈する土器片である。

#### 土壇・埋壺 (第25~26図)

1号土壇~6号土壇は、本遺跡の南東部に集中して検出された。1号土壇は、円形(95cm前後の径、深さ25cm)のプランを呈し、小形の浅鉢形土器(1)の破片を伴う。2号土壇は、円形(90cm前後の径、深さ70cm)を呈し、東壁を除き下部が袋状にオーバーハングする。石皿の破片と加曾利E2式期の様相を呈する浅鉢形土器(2)が出土。3号土壇は4号土壇に接して検出され、北東部がやや突出する楕円形(1.25×1.05m、深さ40cm)を呈する。4号土壇は、楕円形(75×65cm、深さ45cm)を呈し、加曾利E3式期の土器と磨石を伴う。5号土壇は、4号土壇の北方に隣接し、東西にやや長い楕円形(1.2×1.1m、深さ40cm)を呈する。7号土壇は、12号住居の西方に検出され、隅丸方形東西(1.15×南北85cm、深さ40cm)のプランを呈し、大振りの河原石と3点の石皿を使用している。8号土壇は、9号住居と一部を

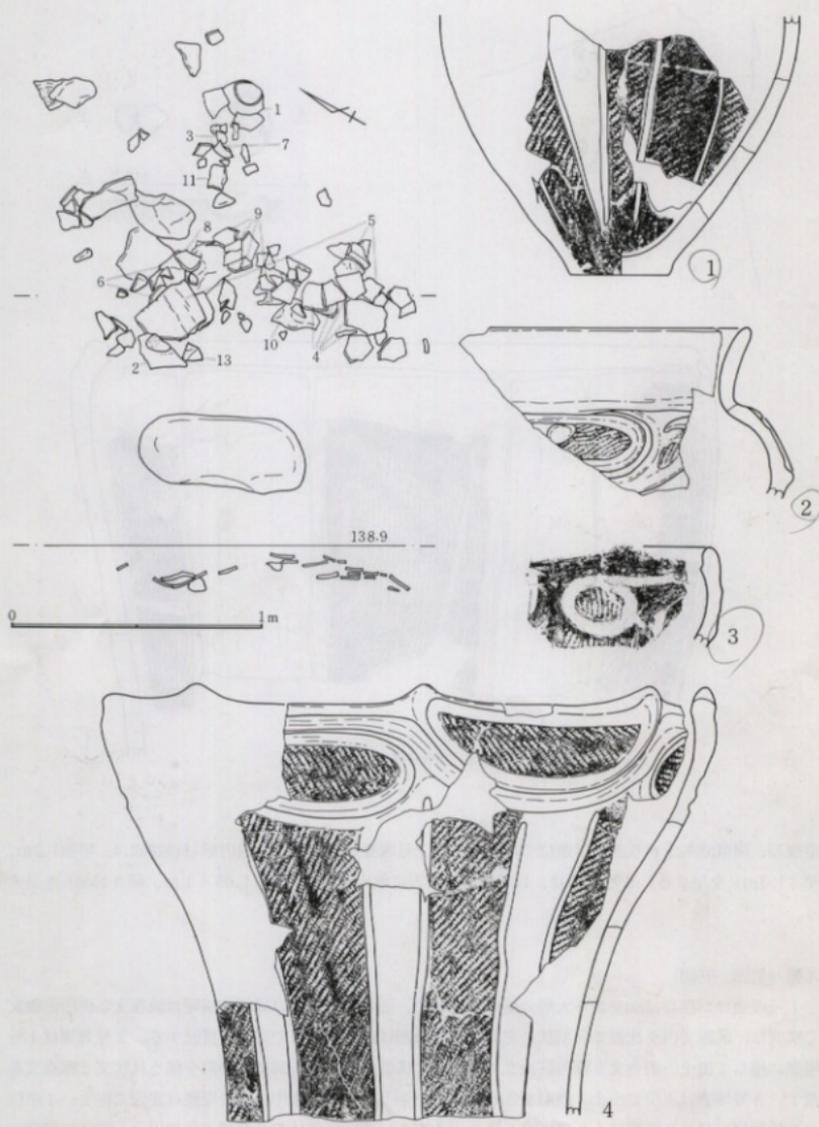


第21図 18号住居・出土遺物

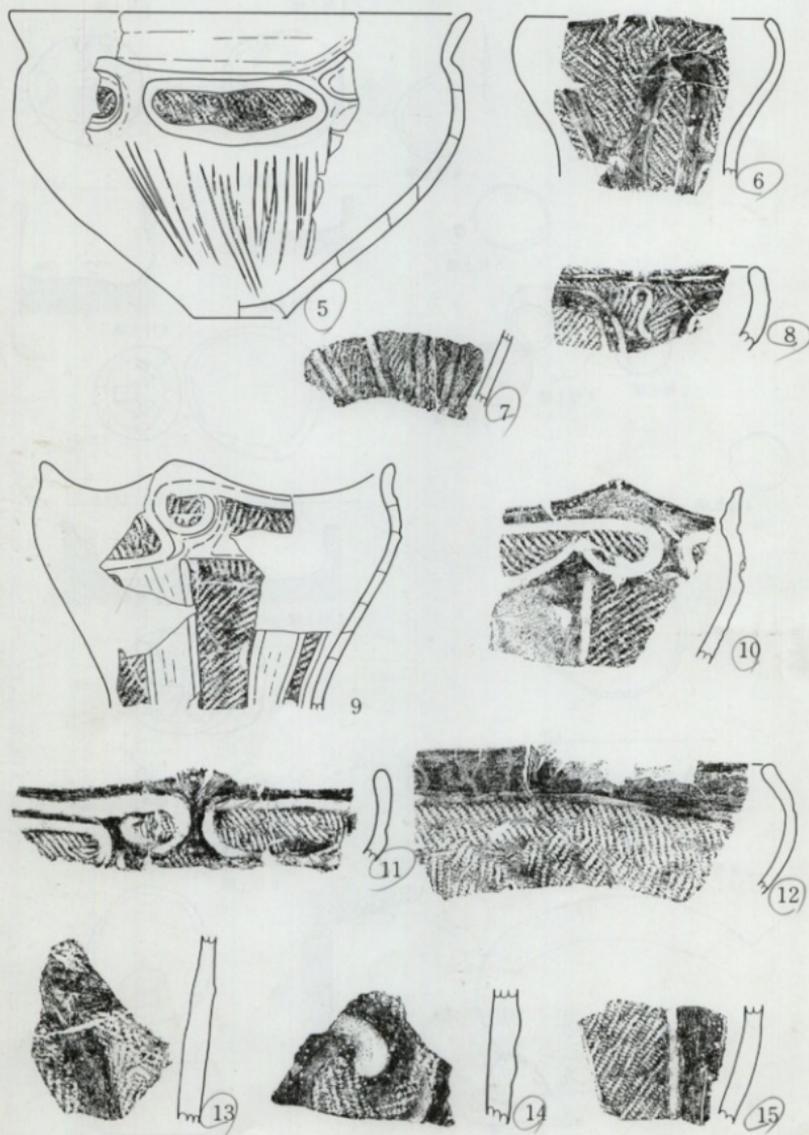
重複し、南壁立ち上がり部には逆位で埋設された7号埋壺が存在する。楕円形(長軸約2.4、短軸1.5m、深さ1.3m)を呈する。9号土壇は、11号住居の東方に検出され、円形(1.05×1m、深さ45cm)を呈する。

#### 埋壺(第25、26図)

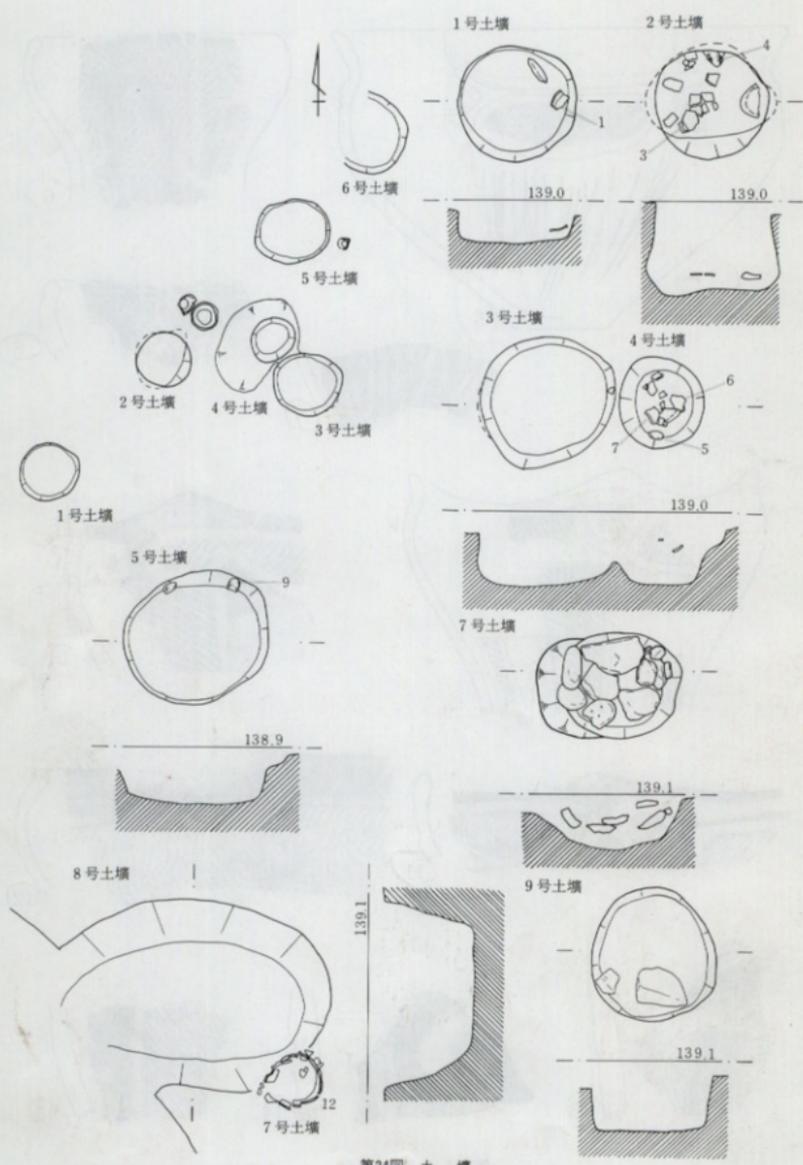
1号埋壺は口径42.5cmを測る大形の深鉢形土器で、正位で出土。口縁部文様帯は渦巻文と楕円区画文で構成し、区画文内を沈線で矢羽状に充填する。胴部は背割り隆帯で文様を意匠する。2号埋壺は1号埋壺に接して出土。渦巻文と楕円区画文で口縁部文様帯を構成し、胴部に磨消を伴うH状文と懸垂文を施す。5号埋壺は正位で出土。磨消を伴う懸垂帯を垂下させる胴部片。6号埋壺は逆位で出土。4単位の波状口縁を呈し、隆帯により区画文と渦巻文を施す。7号埋壺は双耳壺で逆位で出土。復元口径39cmを測る。



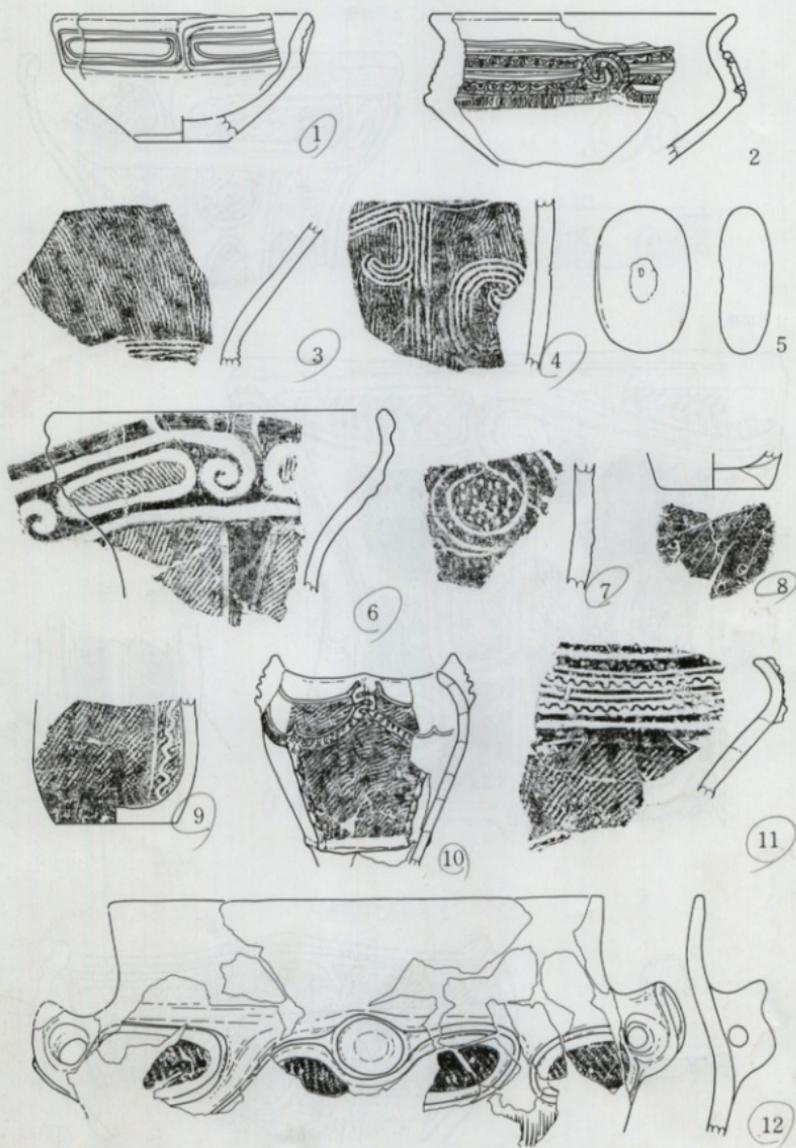
第22図 土器瀧まり(1)



第23図 土器瀧まり(2)

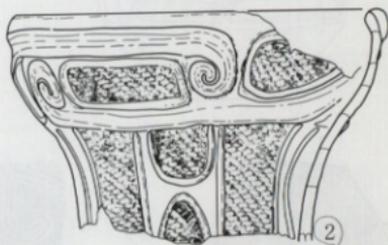
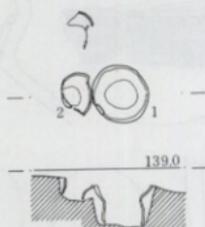


第24图 土壤

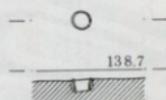
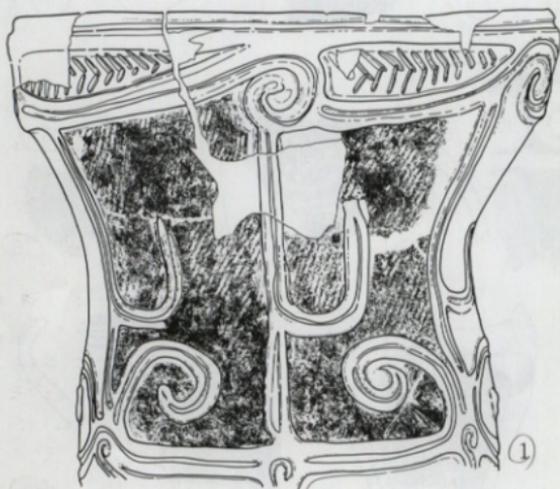


第25図 土壙出土遺物・埋壘(1)

2号埋龕



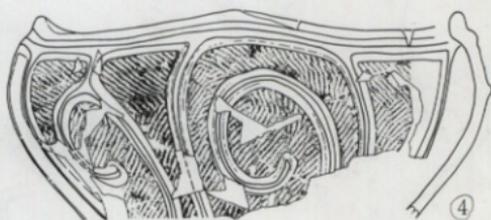
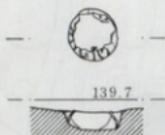
1号埋龕



5号埋龕



6号埋龕



第26图 埋龕(2)

## 西小路古墳群

### 漏1号墳 (第27～28図)

当古墳は、調査区の北西隅の平坦部に検出され、18—12グリットに主体部をおく。墳丘の封土は残存していない。周堀は東側で確認された。内部施設は耕作による攪乱により玄室の右側壁と両袖部、羨道部の右側壁の一部が抜き取られている。残る根石から両袖型横穴式石室と考えられる。

主体部前面には、2.1×1.55m、深さ20cmを測る楕円形の掘り込みがあり、前庭部の名残りと考えられる。石室の構築はロームを掘り下げ隅丸方形の堅穴を設け、底面に根石を据えている。玄室部で4.55mを測り、羨道部につれて幅を減少させている。主体部の規模は、全長5.45m、玄室幅は残る2石の奥壁で1.65m前後、羨道幅83cmを測る。床面は小礫、小円礫で構築されているがかなり乱れている。

玄室内から6点の耳環、3点の縁金具、2点の懸緒金具、1点の鉄鏝と骨片が出土した。

### 漏2号墳 (第29～32図)

当古墳は、調査区のほぼ中央の平坦部に標高140m前後に検出され、11—15グリットに主体部をおく。墳丘の封土は残存していない。周堀は、南東部で途切れているが全周していたと考えられ、その径は25mを測る。本調査の古墳中最大規模のもので、周堀の幅は最大幅を有する北東部で上端4.4m、下端2.4m、深さ94cmを測る。墳丘の規模は東西南北約25mである。

石室開口部前面には東西長4m、南北長5mを測る方形の前庭状の掘り込みがあり、周堀の底面より更に20cmほど掘り込んでいる。開口部の左右には石積の袖が存在したのであろうと考えられる根石が1石見られる。

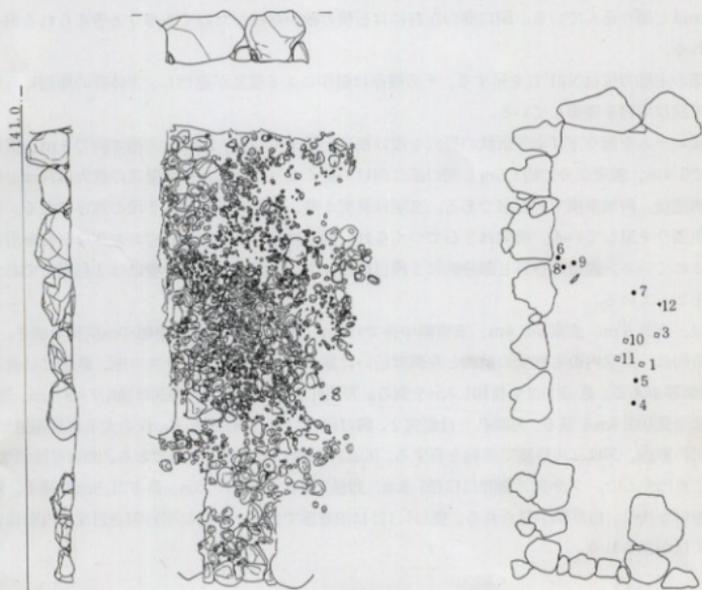
主体部の主軸方位はN21°Eを呈する。その残存は耕作による攪乱が進行し、主体部の周辺に方形の掘り込みを設け用材を廃棄している。

石室はロームを掘り下げ羽子板状の堅穴を設け根石を据えている。規模は主軸方向で8m、横幅が玄室部分で5.4m、羨道部分で約3.5mと開口部に向けて狭くなっている。残存壁高の最大は77cmを測る。

内部構造は、両袖型横穴式石室である。玄室は奥壁1段、側壁が部分的に2段の残存である。平面プランは胴張りを呈している。奥壁は2石でつくられ、側壁は右5石、左6石でおおきな石材を用い小礫が補填されている。羨道は根石と部分的に2段目が残存する。羨道と玄室の境には3石据えてあり樞石の体裁をとっている。

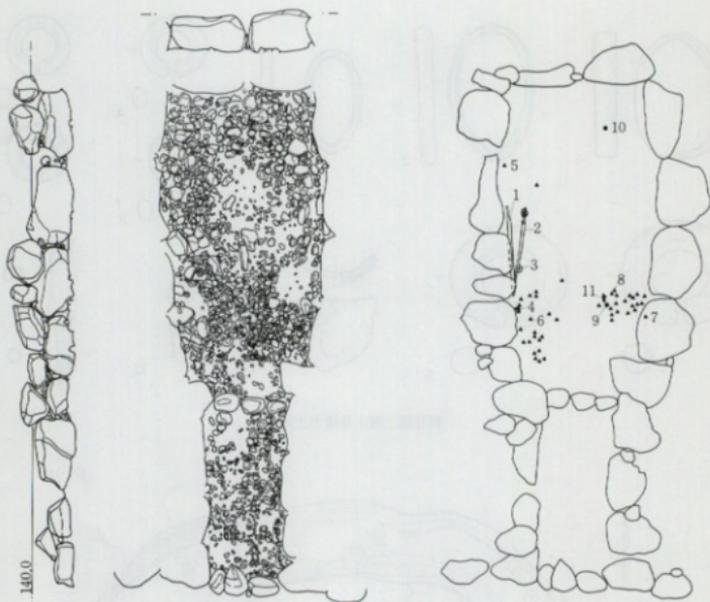
規模は、全長6m、玄室長3.6m、玄室幅中央で1.7m、羨道長2.4m、羨道幅80cm前後を測る。

出土遺物は、玄室内の右側壁の前面と左側壁沿いに集中する。耳環・フラスコ瓶、鉄器には直刀・鉄鏝・弓飾鋌等がある。直刀(1)は全長101.8cmを測る。刃関孔1と目釘穴2。鏝(3)は径6.7×8.1cm、透し1。直刀(2)は全長102.8cmを測る。刃関孔と目釘穴2。鏝は径7.3×8.7cm、透し8。鉄の大半は長頸鏝である。(4)は長三角形鏝、(5)は三角形鏝で逆刺を有する。(6)は片刃鏝、(7)は三角形鏝である。(8)は弓飾鋌である。耳環は2点出土した。フラスコ瓶(10)は口径7.8cm、頸径7.1cm、胴径17.2cm、高さ21.9cmを測る。胴部に掻き目整形を施し、自然釉が見られる。甕(11、12)は前庭部で出土。外面に平行叩き目文、内面は青海波文のあて目が見られる。



第27图 漏1号填





第30図 漏2号墳石室

### 漏3号墳 (第33図)

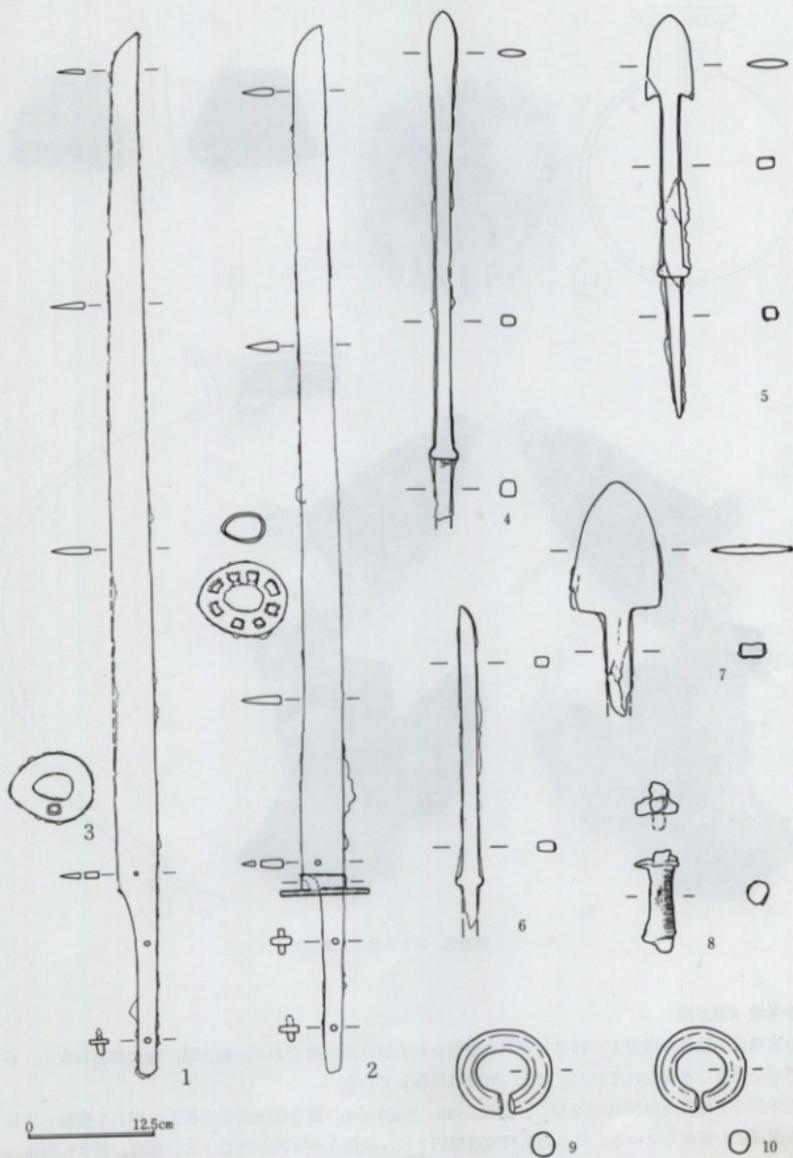
当古墳は漏2号墳の南東に位置し、その主体部を8—19グリットにおく。北方部は近世の道路跡（馬入れ）によって壊されている。墳丘の封土は残存しない。周堀は東、西方に検出された。残存する周堀より墳丘径は12m以上と考えられる。主体部前面には前庭状の掘り込みを設けている。内部施設は耕作による攪乱が著しく形状、規模は不明であり、出土遺物も皆無であった。

### 漏4号墳 (第34図)

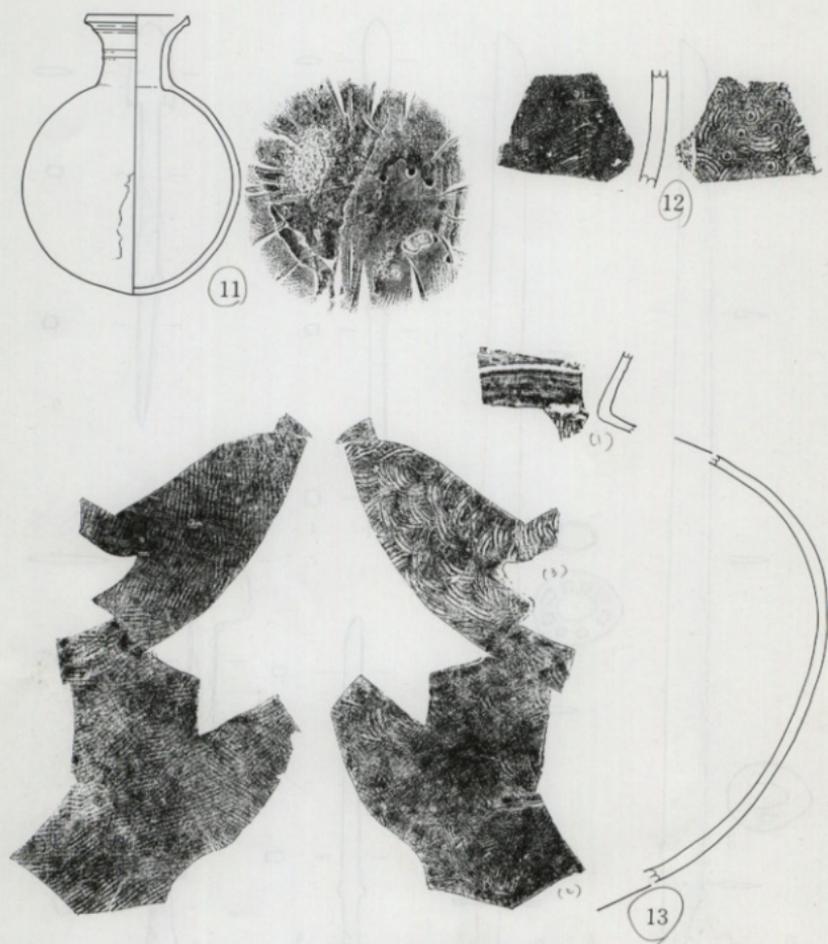
当古墳は漏2号墳の南々東で漏3号墳に隣接し、その主体部を6—17グリットにおく。墳丘の封土は残存しない。周堀は北西部と前庭に続く南西部に検出された。周堀幅は北西部で上端1.25～1.45m、下端50cm、深さ10～25cmを測る。墳丘径は、南北13.7mである。

石室開口部前面には前庭状の掘り込みがあり、扇状に広がり、西方は周堀に続く。奥行き4.25m、深さ55cmを測る。

主体部の主軸方向はN7°Eを呈し、標高139.8mほどである。内部構造は両袖型横穴式石室で左壁がやや胴張りである。側壁は根石から部分的に3段目まで残存する。規模は全長4.55m、玄室長2.6m、玄室幅中央で3.15m、羨道長1.95m、羨道幅70cm前後を測る。出土遺物は皆無であった。



第31图 濶2号墳出土遺物(1)

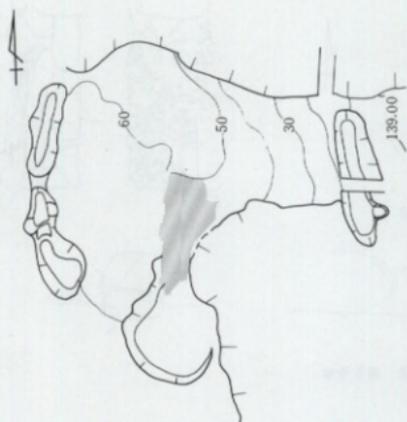


第32図 瀬2号墳出土遺物(2)

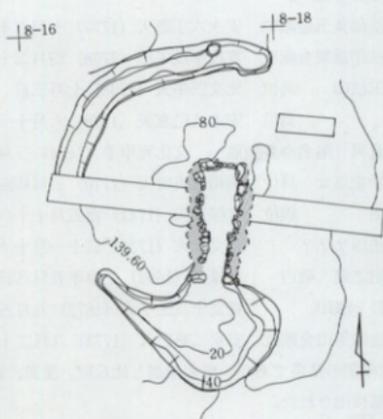
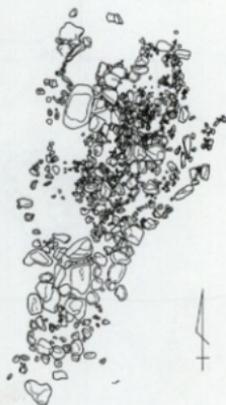
瀬5号墳 (第35図)

当古墳は本遺跡の南方4—16グリットに検出された竪穴式古墳である。検出時で既に蓋石はなく、石室内は小礫等で充填されていた。封土、周堀は残存していない。

主体部の主軸方向はN24°Eを呈し、長軸2.6m、短軸1.6m、深さ60cm前後の掘方に用石を横積して箱式棺状石椁を構築している。その側壁構成は短辺2段、長辺3～4段が残存する。規模は長さ1.34m、幅54～60cm、深さ55cm前後を測る。出土遺物は皆無であった。



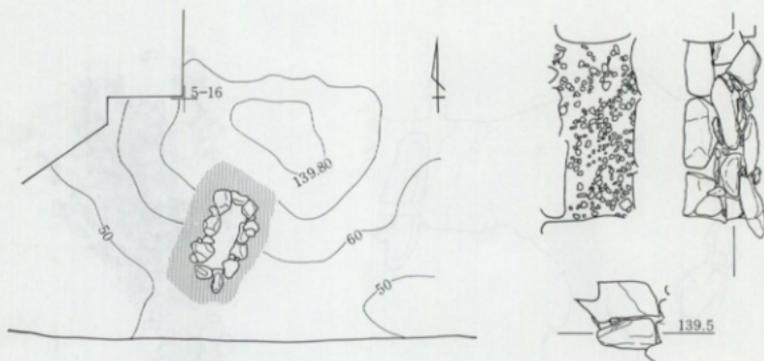
第33图 墓3号墳



第34图 墓4号墳



14.00



第35図 瀬5号墳

## 近世墓 (第36~39図)

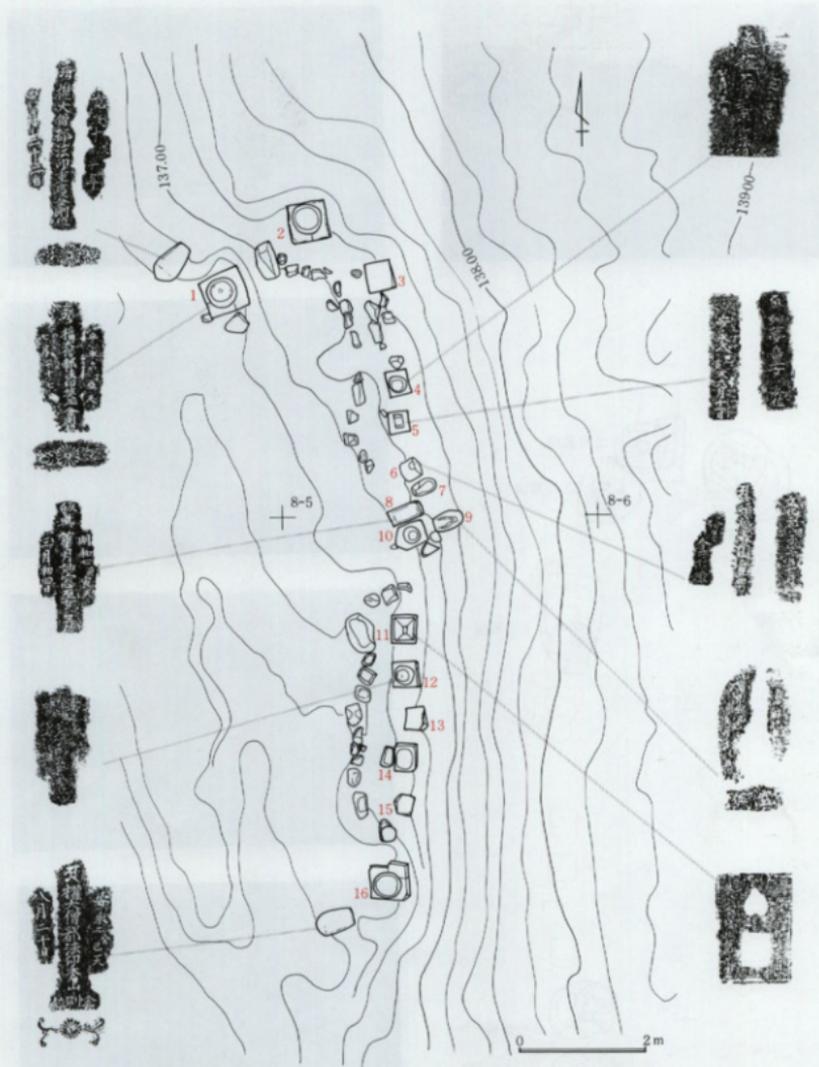
当墓地は本遺跡の南西隅に位置し、傾斜面をL字状に削平している。基塔は標高137m前後に削平地と同様にL字状に配している。各々の墓塔に紀年銘などを記す。

- |       |              |                |                      |
|-------|--------------|----------------|----------------------|
| 1号墓塔  | 種子アーク (大日如来) | 權大僧都法印英玉金剛位    | 安永六丁酉天 (1777) 七月二十七日 |
| 2号墓塔  | 種子アーク (大日如来) | 權大僧都法印重慶金剛位    | 寛政十戌午年 (1798) 四月二十二日 |
| 4号墓塔  | 種子ウーン (明王)   | 權大僧都玉法印 具位     | 元文三年天 (1738) 七月三日    |
| 5号墓塔  | 種子カ (地藏)     | 妙夢童女 具位        | 安永八巳亥天 (1779) 六月十一日  |
| 6号墓塔  | 種子ア (胎藏界大日)  | 額? 春日童男 俗名今井熊藏 | 文化元甲子 (1804) 三月初七日   |
| 8号墓塔  |              | 坂眞華月妙窓巫女 具位    | 明和七庚寅天 (1770) 三月初四日  |
| 9号墓塔  |              | 貞鮮比丘尼 靈位       | 寛保元天 (1741) 西五月十八日   |
| 10号墓塔 | 種子ウーン?       | 權大僧都法印???      | 元文元天 (1736) 辰十一月十一日  |
| 11号墓塔 |              | 宗師比丘尼之靈 敬白     | 元禄五 (1692) 壬申年五月八日   |
| 12号墓塔 | 種子ア (胎藏界大日)  | 權大僧都長? 法印      | 寛文十二壬子天 (1672) 九月五日  |
| 16号墓塔 | 種子ア (胎藏界大日)  | 權大僧都法印秀山金剛位    | 安永二癸巳天 (1773) 八月二十日  |

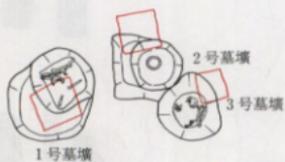
以上の紀年銘から元禄5年~文化元年に至る112年間の墓塔であり、權大僧都と比丘尼、童男、童女、巫女があり神仏混交の墓塔が混在する。墓墳は6基検出された。

1号墓坑は1号墓塔の無縫塔が伴う。出土遺物1のカワラケは口径10.3cm、器高2.2cm、底径6.7cmを測る。2の輪宝は1点の出土。3は煙管吸い口。4~11は寛永通寶。図示できなかったが棺に使用したと考えられる釘が出土。

2号墓坑は2号墓塔の無縫塔が伴う。出土遺物1の骨蔵器は口径19cm、器高15.6cmを測る。骨蔵器内には火葬骨が充填され、上面には7つの輪宝と不明鉄器が埋納されている。2は煙管。3~8は輪宝。9~13は寛永通寶で拓図を掲載できなかったが板材に付着して他に13枚出土。さらに1点の釘と栗が埋納されていた。



第36图 近世墓平面图



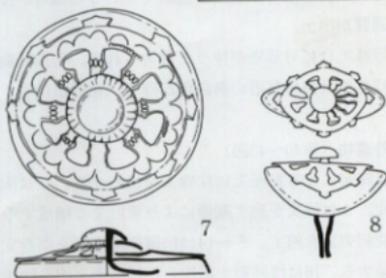
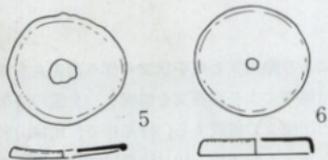
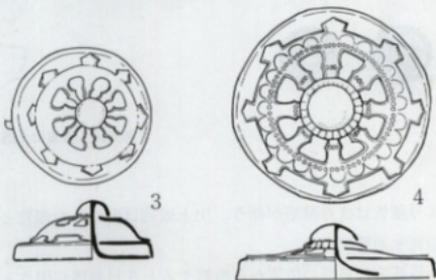
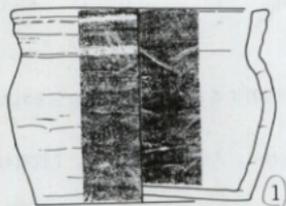
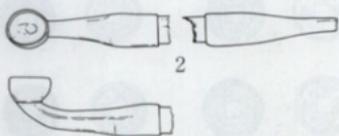
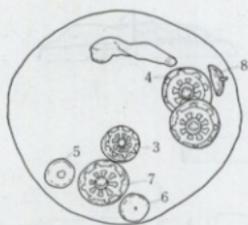
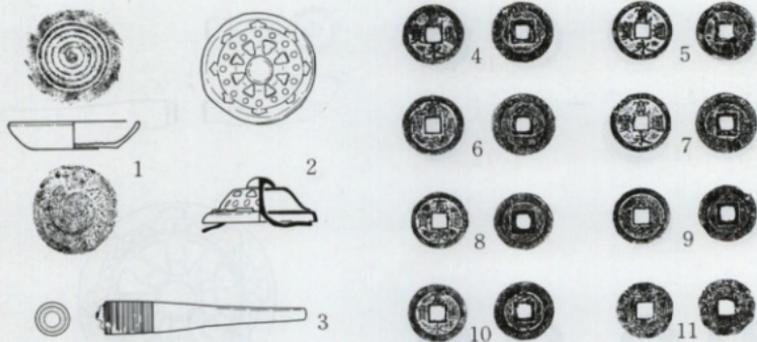
+8-5



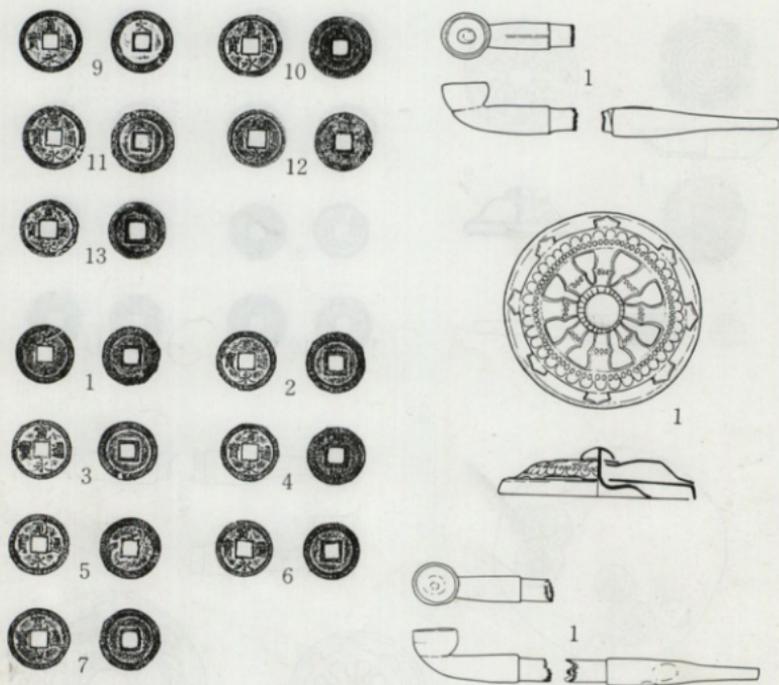
+7-5



第37图 近世墓塔と墓墳



第38图 墓中出土遗物(1)



第39図 墓墳出土遺物(2)

3号墓坑は3号墓塔が伴う。出土遺物は掲載した煙管と布目が附着する6道銭と和紙?に包まれた2枚の寛永通寶が出土。

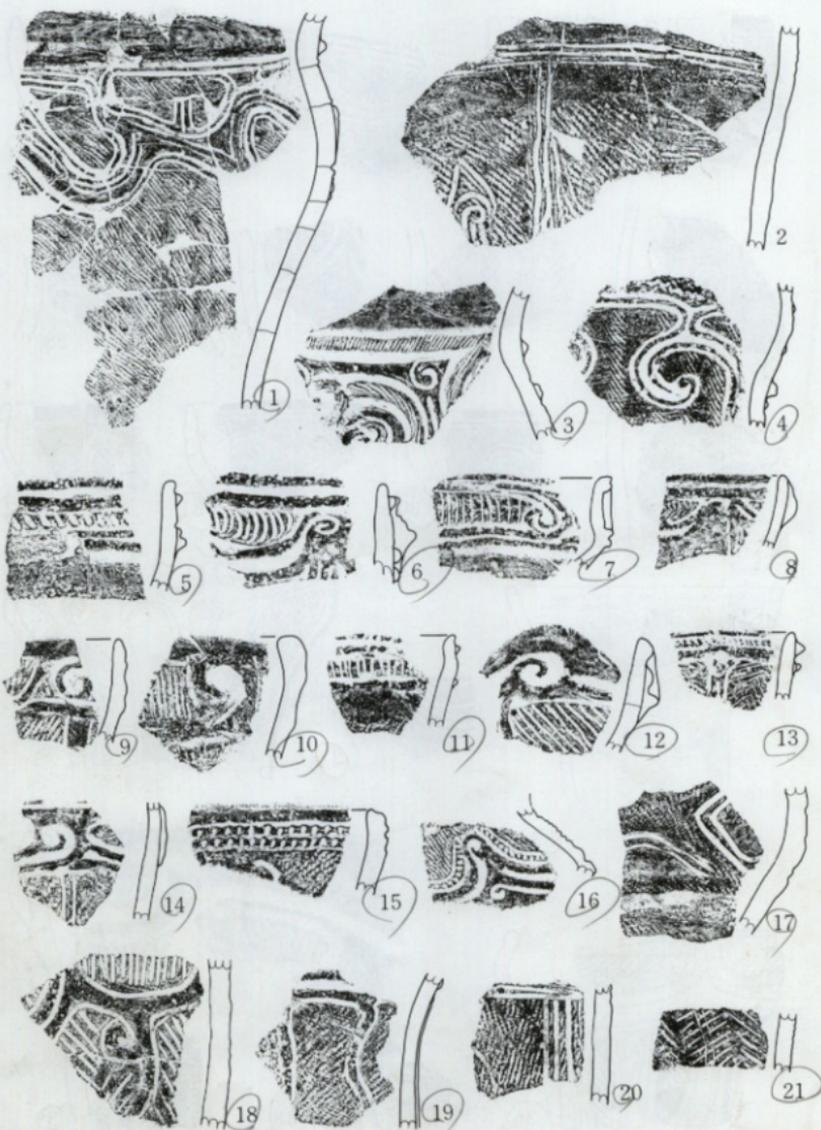
4号墓坑は墓塔の位置から推察すると5号墓塔が伴うと考えられる。人骨の残存は悪い。7枚重ねて寛永通寶が出土。

5号墓坑は15号墓塔が伴うと考えられる。5点の輪寶と2点の不明装束金具が出土。

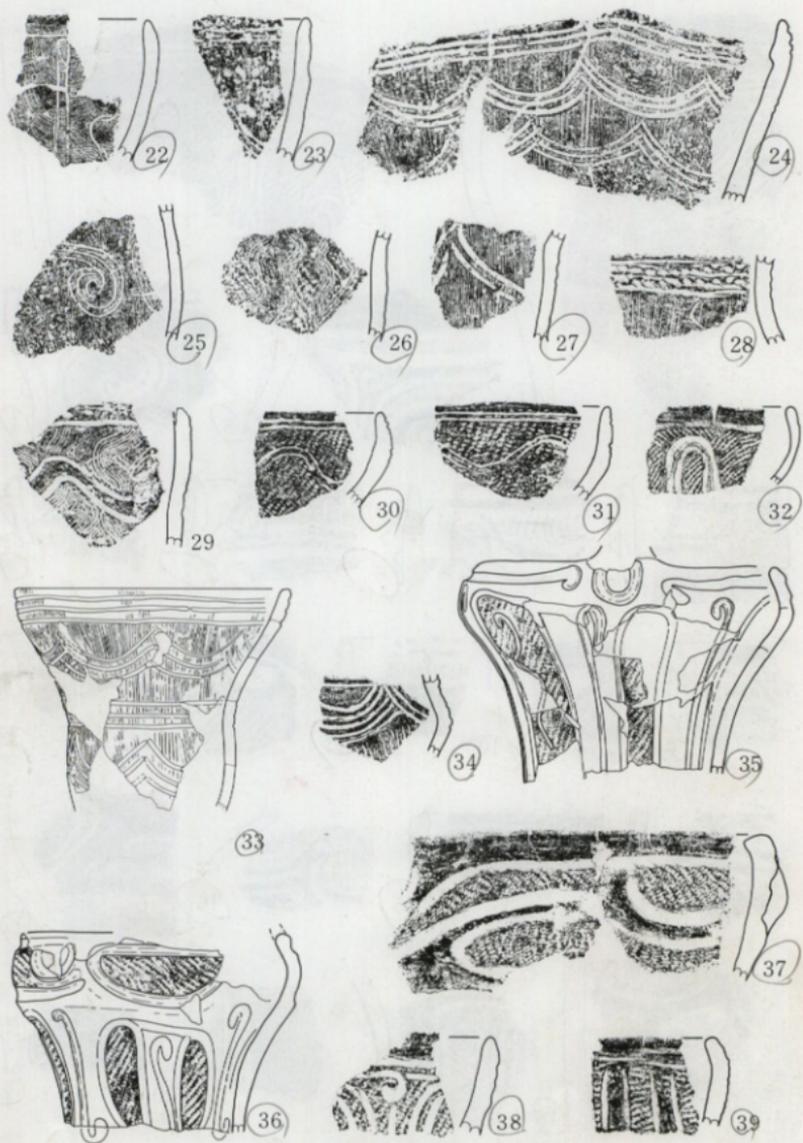
6号墓坑は16号墓塔の無縫塔が伴う。布目が附着する13枚以上の寛永通寶と煙管が出土。

#### 遺構外遺物 (第40~43図)

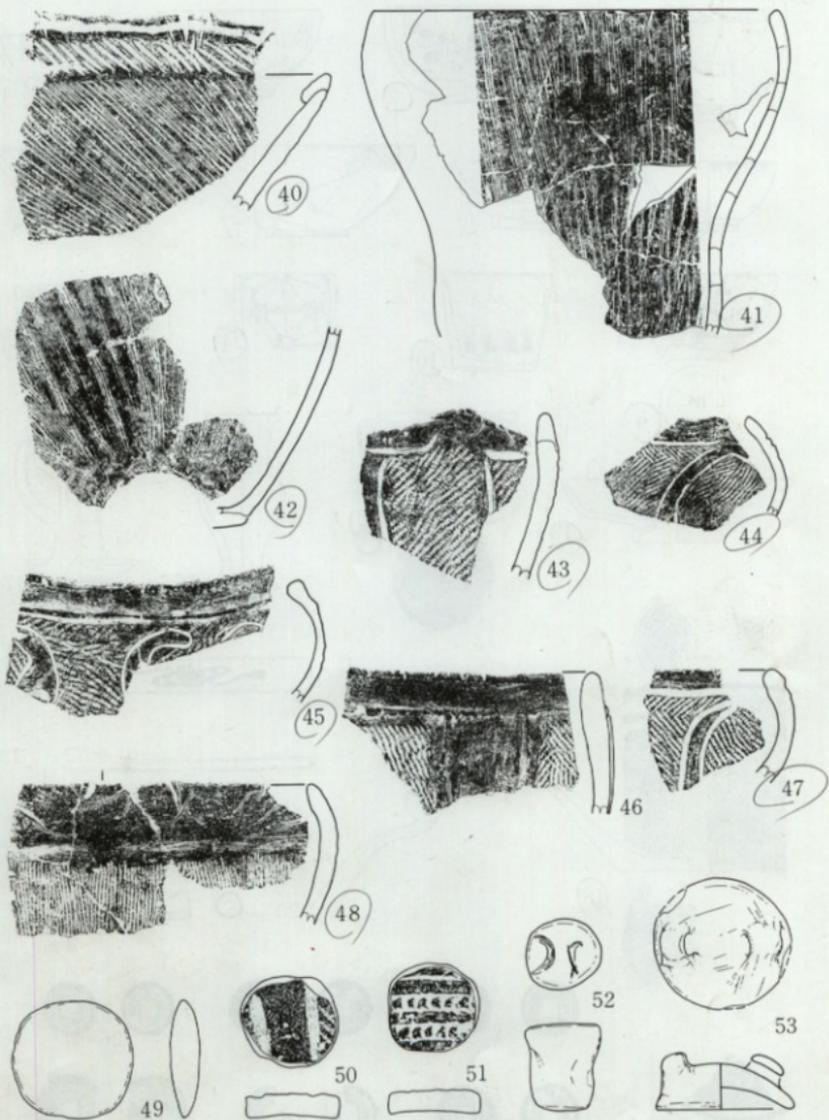
1は隆帯による意匠文に沈線文を沿わせる。2は沈線文により懸垂文と蕨手状文を伴う剣先文を施す胴部片。3は細文を施す隆帯により意匠文を構成する。4は隆帯により渦巻文を構成し、上部の隆帯沿に連続刺突文を施す。5~14は口縁部文様帯を渦巻文と楕円区画文で構成する口縁部片で、12は山形突起を呈する。16は浅鉢形土器片。18は区画文内を沈線文で充填する胴部片。19は隆帯で20は沈線文で懸垂文を垂下させる胴部片。21は沈線文で矢羽状文を施す。24は緩やかな波状口縁の連弧文系土器。28は



第40图 遗構外遺物(1)



第41圖 遺構外遺物(2)



第42図 遺構外遺物(3)



沈線文による横位区画に連続刺突文を施す。30、31は同一個体の口縁部片で波状文を施す。32は磨消を伴うアーチ状文を施す。33は条線文を地文とする連弧文系土器。35は1単位の突起を付す深鉢形土器で胴部に垂下するアーチ状と磨消帯に蕨手状文と波状文を施す。36は口縁部文様帯を渦巻文と楕円区画文で構成し、アーチ状文と蕨手状文を垂下させる。40は曾利系土器の口縁部片。41、42は櫛歯状の条線文を充填する深鉢形土器。43は山形突起を有する口縁部片。46は幅広い磨消帯が見られる。49は基石状を呈する土製品。50は加曾利E3式期の土器片を利用した土製円盤、51は諸磯式土器の土製円盤。52は耳栓。53は蓋状土器。

#### 近世遺物

1～6、9～12は肥前系の染め付け茶碗。7、8、13、14は美濃系。7は柳茶碗、8は大白茶碗。14の小皿は燈明皿に使用。15は燈明皿に使用したカワラケ。16は灰釉と鉄釉を塗り分けた仏花瓶。17はひょうそくで把手を欠損している。18は摺鉢片。19は斧の柄部分で蟹が意匠されている。20は煙管の雁首、21と22は煙管の吸い口。23は小ぶりの手鏡で梅花文が見られる。25～28は寛永通寶の一文銭で新寛永、29は四文銭の新寛永。

## 第4章 結 語

本遺跡では図示できなかったが1点の旧石器と縄文時代中期加曾利E式期の集落、7世紀代と考えられる古墳群、江戸時代の墓地ならび屋敷跡が調査された。

加曾利E式期の集落跡から2軒の柄鏡形の敷石住居が検出され、出土遺物では2点の蓋状土器が目目される。

西小路古墳群として5基の記載漏れの古墳を検出し、上ノ山古墳群、さらに東小路古墳群が集中して茂木古墳群を構成していることが判明した。今回調査の竪穴式古墳は上ノ山古墳群に見られる箱式棺状石槨と形態を異にしている。

近世墓地では修験者の墓を検出し、結袈裟の一種である磨紫金袈裟に使用された輪宝が出土した。磨紫金袈裟は江戸時代に徳川幕府の政策で本山派と当山派のどちらかに二分され、当山派の修験者に着用された。輪宝は渡金が施され、金糸等も残存しているものもある。その大きさから大中小に分類される。出土した寛永通寶にはずた袋にいられたと考えられるものが2点、さらに和紙にくるまれているものも注目される。



西小路遺跡全景（南西より）



1 1号住居 (北方より)



2 2号住居



3 2号住居炉



4 2号住居遺跡出土状況



5 3号住居



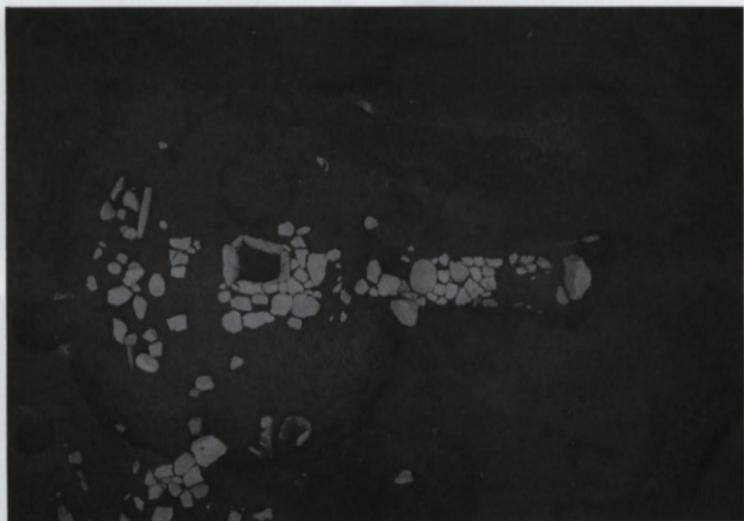
6 3号住居埋壙



7 3号住居埋壙



8 4号住居



1 6号住居（真上から）



2 6号住居（南西から）



3 6号住居（東方から）



4 6号住居張り出し部



5 6号住居遺物出土状況



1 7号住居 (南方から)



2 7号住居 (東方から)



3 7号住居埋壙



4 9号住居



5 9号住居炉



6 10号住居



7 11号住居遺物出土状況



8 11号住居



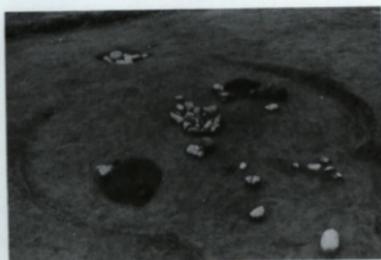
1 11号住居炉



2 11号住居遺物出土状況



3 11号住居遺物出土状況



4 12号住居



5 12号住居炉



6 13号住居



7 13号住居遺物出土状況



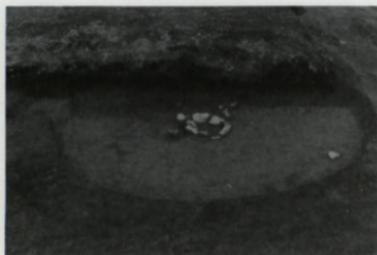
8 14, 16号住居



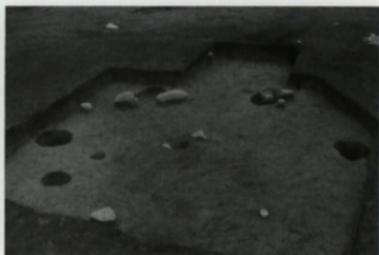
1 14号住居遺物出土状況



2 16号住居炉



3 15号住居



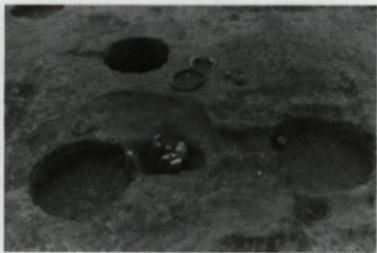
4 17号住居



5 17号住居炉



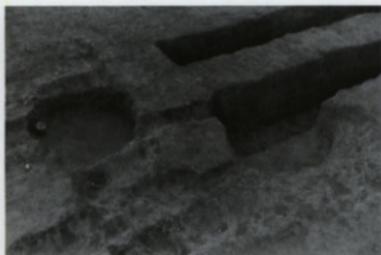
6 17号住居遺物出土状況



7 土坑群と埋壙



8 1号土坑



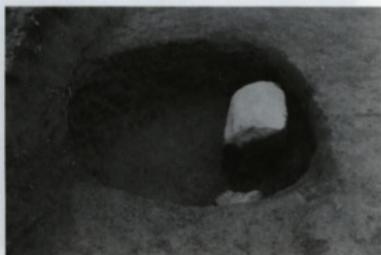
1 5、6号土壌



2 7号土壌



3 8号土壌



4 9号土壌



5 7号埋壙



6 土器溜まり



7 漏1号墳



8 漏1号墳遺物出土状況



1 瀨 2号墳全景



2 瀨 4号墳全景



1 漏2号墳遺物出土状況



2 漏2号墳前庭



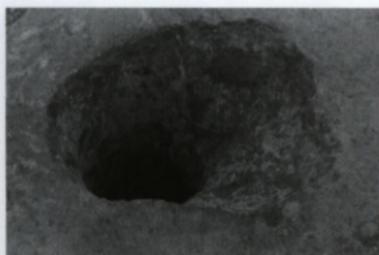
3 漏4号墳



4 漏5号墳



5 漏5号墳



6 2号井戸



7 近世墓地（北方より）



8 近世墓地（南方より）

西小路遺跡 ゴルフ練習場建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告

---

平成6年3月30日発行

編 集 群馬県勢多郡大胡町教育委員会

発 行 群馬県勢多郡大胡町教育委員会

〒371-02 群馬県勢多郡大胡町河原浜483

電話 0272 (83) 7141

---

印刷製本 朝日印刷工業株式会社